

授業科目	地域保育基礎講座		単位数	2	担当教員	近喰晴子 他
講義のねらいと概要	<p>地域保育学科における3年間の学びを開始するにあたり、基礎となる様々な事項について学び、短大生として、また地域保育学科の学生として必要な知識、技能、態度等を養成する。授業担当は、地域保育学科の専任教員がリレー式で行う。</p> <p>前期において、各回の内容は基本的に以下の二つが含まれる。短期大学での授業を受講するにあたり、必要となる「学び方」に関する知識・技能等について、担当する専任教員の専門分野に関する講義。また、最後に全員が個人発表を行い、学習の成果を確認する。</p> <p>後期はA班「基礎学力養成コース」およびB班「保育実技体験コース」のいずれかを選択して活動を行い、更なる知識、技能、態度等の養成を図る。</p>					
授業計画	第1週	授業概要の紹介および学科専任教員の紹介	第16週	A班：オリエンテーション B班：オリエンテーション		
	第2週	大学で何を学ぶのか、ノートの取り方(1) 保育者に必要な基礎学力とは	第17週	A班：基礎学力養成講座(1) B班：保育実技体験(1)		
	第3週	ノートの取り方(2) 保育と食育	第18週	A班：基礎学力養成講座(2) B班：保育実技体験(2)		
	第4週	テキストの読み方：より深い解読のために 自然科学的な観点から保育のあり方を探る	第19週	A班：基礎学力養成講座(3) B班：保育実技体験(3)		
	第5週	要約の仕方：内容本位でまとめる (未定)	第20週	A班：基礎学力養成講座(4) B班：保育実技体験(4)		
	第6週	きちんと考える方法：自分の意見を言うために 何故保育士は心理学を学ぶのか	第21週	A班：基礎学力養成講座(5) B班：保育実技体験(5)		
	第7週	レポート・論文の書き方1：基本編 障害者福祉とボランティア	第22週	A班：基礎学力養成講座(6) B班：保育実技体験(6)		
	第8週	レポート・論文の書き方2：内容編 保育内容・実習指導(ディベート)	第23週	A班：基礎学力養成講座(7) B班：保育実技体験(7)		
	第9週	図書館の利用：図書館検索と資料の検索 ソルフェージュを基礎とした音楽理論	第24週	A班：基礎学力養成講座(8) B班：保育実技体験(8)		
	第10週	レジュメの作り方：発表のための資料 保育所、幼稚園での子どもの育ちを考える	第25週	A班：基礎学力養成講座(9) B班：保育実技体験(9)		
	第11週	実習の流れと心構え ほか	第26週	A班：基礎学力養成講座(10) B班：保育実技体験(10)		
	第12週	ゼミ発表の仕方：聞く気にさせる話し方 発達心理学を保育にどう生かすか	第27週	A班：基礎学力養成講座(11) B班：保育実技体験(11)		
	第13週	発表第1回	第28週	A班：基礎学力養成講座(12) B班：保育実技体験(12)		
	第14週	発表第2回	第29週	A班：後期のまとめ(1) B班：後期のまとめ(1)		
	第15週	発表第3回 前期のまとめ、後期へのオリエンテーション	第30週	A班：後期のまとめ(2) B班：後期のまとめ(2)		
指導方法 履修上の 注意	<p>今後の学習を進めていく上で非常に重要な内容であるので、必ず出席すること。もし欠席の場合は、各担当回の教員に申し出た上、事後の指導を受けること。また、レポート提出、発表前のレジュメ提出等が求められる。期限に遅れることのないよう提出のこと。</p> <p>後期のグループ選択と具体的な活動内容・日時については、前期授業において指示する。</p>					
成績評価の方法	レポート(30%)、発表(30%)、授業態度(40%)					
教科書	『大学基礎講座 改増版 充実した大学生活をおくるために』(藤田哲也ほか、北大路書房)					
参考文献	授業中に適宜紹介する。					

授業科目	日 本 国 憲 法	単位数	2	担当教員	平 田 陽 一
講義のねらいと概要	<p>国民主権・基本的人権の尊重を基本的理念とする憲法を理解するためには、その法思想的背景を理解する必要がある。これらの憲法上の法理念がわが国で生まれたものではなく、西欧で生まれた自然法思想などに由来するものだからである。しかもこれらの法理念はわが国の教育においてほとんど説明されていないものである。それが原因となって、個人的レベルでは自律した人間としての成長の阻害、社会的レベルでは他人の人権（生命・身体・自由など）に対する無思慮な侵害、国家的レベルでは民主主義の未成熟というような重要な問題を生じさせ、年々より深刻な状況に陥らせている。講義では、憲法の基本原理などについて説明をする。</p>				
授業計画	第1週	憲法について			
	第2週	自然法思想と近代立憲主義			
	第3週	近代国家と憲法			
	第4週	憲法の基本原理 = 平和主義			
	第5週	憲法の基本原理 = 国民主権主義			
	第6週	憲法の基本原理 = 人権尊重主義			
	第7週	憲法の基本原理 = 権力分立主義			
	第8週	国民の権利 = 人権			
	第9週	国民の権利 = 自由権			
	第10週	国民の権利 = 社会権			
	第11週	国民の権利 = 参政権等			
	第12週	統治機構 = 立法機関			
	第13週	統治機構 = 行政機関			
	第14週	統治機構 = 司法機関			
	第15週	憲法の現代的諸問題			
指導方法 履修上の 注意	<p>憲法は国家（政府）と国民の関係についての基本的な法規範であり、「講義のねらいと概要」で簡単にふれたところであるが、個人の幸福や社会の一員としてのあり方と密接な関係にある。したがって、一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、より意欲的な、自己の人生（幸福の追求）や社会のあり方を考えるという心構えで勉強することが望まれる。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（80%）、授業態度（20%）、原則として筆記試験の結果による。				
教科書	『現代社会の法と民法』（小野幸二編著、八千代出版）				
参考文献	参考文献は初回の講義のときに説明をする。				

授業科目	情 報 処 理		単位数	2	担当教員	橋 本 洋 子
講義のねらいと概要	この演習では、高度情報化社会に不可欠な情報処理の基礎を実践的に学び習得することを目的としています。コンピュータの各アプリケーションソフトの基本操作を身につけるだけではなく、コンピュータの基礎知識（周辺機器の使用方法など）や基礎用語、活用方法等について学びます。レポート・論文作成等に必要の入力操作、数値データ処理やグラフ作成といった基本的なアプリケーションソフトの基本操作と編集方法を習得し、コンピュータを自由自在にこなせるための基本的な活用能力を養います。					
授業計画	第1週	ガイダンス：コンピュータの基本操作と基礎知識 WORD アプリケーションソフト『WORD』を用いた入力に必要な基本操作（日本語入力・変換方法）				
	第2週	コンピュータの基礎知識 タイピング練習 WORD 文書作成の基礎・文書の管理				
	第3週	タイピング練習 WORD 文書作成と編集（書式設定、文字の装飾など）				
	第4週	タイピング練習 WORD 文書作成と編集（表を活用した文書の作成。基本操作）				
	第5週	タイピングテスト WORD 文書作成と編集（画像を用いた文書の作成）				
	第6週	タイピングテスト WORD 文書作成と編集（図形描写などの編集操作）				
	第7週	まとめ				
	第8週	EXCEL アプリケーションソフト『EXCEL』に必要な基礎知識と基本操作（文字や数値の入力）				
	第9週	EXCEL データの操作（セルの書式設定）・ワークシートの基本操作				
	第10週	EXCEL 表の作成（セルの書式設定）・関数を利用した計算処理・表の作成				
	第11週	EXCEL 表・グラフの作成と編集操作				
	第12週	WORD/EXCEL の連携操作 インターネット入門、Web mail の活用				
	第13週	POWERPOINT アプリケーションソフト『POWERPOINT』の基礎用語およびスライド作成の基本操作				
	第14週	POWERPOINT スライド作成における編集操作、グラフ、画像、動画の活用方法				
	第15週	まとめ				
指導方法 履修上の 注意	毎回例題を用いて基本操作および編集方法を学び、応用問題の課題提出があります。積み重ねが大切な演習科目のため欠席することなく取り組んでください。進度によってシラバス内容が変更することもあります。指示に従ってください。また、情報処理に必要な基礎知識等に関して随時小テストを実施します。他の受講生の迷惑にならないよう私語は厳禁であり、コンピュータ室利用にあたっての注意事項を厳守していただきます。					
成績評価の方法	課題・小テスト（60%）、実技（20%）、授業態度（20%）					
教科書	『30時間でマスター WindowsVista対応 Office2007』（実教出版編集部、実教出版） 随時資料を配布します					
参考文献						

授業科目	英	語	単位数	2	担当教員	杉山早苗
講義のねらいと概要	<p>英語の読解力をさらに高めることを目的とする。</p> <p>Marie Killilea の「Karen」を読む。脳性麻痺というハンディを背負った少女が、周りの愛情に支えられて明るく成長する姿を母親が描いたものである。</p> <p>折に触れ、文法や文化の違いについて述べる。</p>					
授業計画	第1週	まだ身障者に対する偏見があった時代における本書の成立過程の説明及び授業の進め方。	第16週	この種の子供に対する親の叱り方についても学ぶよう注意を促しながら読む		
	第2週	以降の授業については、基礎学力の不足を補う意味で、丁寧に構文や発音の指導を行う。	第17週	母親になったつもりで、ある場面を設定して叱る際の言葉を試しに英語で表現させてみる。		
	第3週	一人称の「主人公の母」の物語形式になっていることの効果を考えさせながら読む。	第18週	前の時間に書いた短文（叱り方）を写して提出させる。出来たら即座にチェックする。		
	第4週	脳性麻痺がどういう病気で、世界の現状はどうであるか知るところを話させながら読む。	第19週	平易な文章なので試験的に速読を試みる。		
	第5週	主人公カレンの家庭環境について今までに学んだことを整理させながら読む。	第20週	速読と Q and A		
	第6週	障害に関する英語表記の種々の変化について発表させ、その理由を考える。	第21週	速読と Q and A		
	第7週	カレンのおかげで家族がどう変化したか、具体的に再確認させて読む。	第22週	前の章の内容を簡単に発表できる（不足の場合は補充）習慣を徹底させながら読む。		
	第8週	カレンを中心とするエピソードの積み重ねを分類してメモさせながら読む。	第23週	自分がカレンになったつもりで、その思いを英語の短文にまとめながら読む。		
	第9週	両親の苦心とカレンの苦勞。各自の単語増法を話し合わせ、助言する。	第24週	速読と Q and A		
	第10週	人間における「違い」と「差別」という問題を学生自身の問題にひきつけて考え読む。	第25週	可能ならば、同じような状況にある英米人の、新聞の人生欄への投書をプリントして読む。		
	第11週	これまでのを本文を応用しながら要約する宿題を出す。先に要約の仕方を簡単に説明する。	第26週	ヘレン・ケラーの伝記（The Story of My Life）を紹介し、その一部をプリントして読む。		
	第12週	前の時間に出した課題から選んだ幾つかの例を読んで聞かせてから続きを読む。	第27週	パール・バックの（The Child Who Never Grew）を紹介し、その一部をプリントして読む。		
	第13週	学校や世間での身体障害者に対する姿勢を現実的に考えながら読む。	第28週	これまでの重要構文や重要な慣用句の総ざらいをしながら、学生に朗読させる。		
	第14週	将来のために甘やかすまい（independence）という両親の決心をどう思うかを考え読む。	第29週	読み終わった感想を話し合い、障害者への理解と扶助を誓い合えたら成功である。		
	第15週	周囲の目からカレンを守る両親の勇気に注目しながら読む。	第30週	復習のための小テストを行っているので、最後のテストはその中から出題することを指示。		
指導方法履修上の注意	<p>授業は基本的に、指名された人が教科書の訳の発表をする。</p> <p>また、巻末の練習問題もおこなう。</p>					
成績評価の方法	筆記試験（50%）、発表（20%）、授業態度（30%）					
教科書	プリント教材を使用する。					
参考文献						

授業科目	体 育 実 技	単位数	1	担当教員	山城屋正満・岡 芳郎																																															
講義のねらいと概要	<p>短期大学での体育は、生涯生活を健康で人間性豊かに過ごすための幅広い教養を身につける場である。健康は、スポーツ、その他の身体活動の継続的な実践により維持、増進されることが明らかにされている。健康の維持増進を狙いとして活用される運動は、多種多彩である。それぞれの運動内容は、運動様式、運動形態、運動方法などにより、質的、量的に異なる。</p> <p>体育実技は、現在までの体育的な素養を基礎とし生涯体育を念頭において、各種運動、スポーツ種目の実践を通して、身体に関する知識と各種運動の方法を知るとともに、次のような狙いを持って実習する。</p> <p>1) 心身の発育発達の促進および健康体力の維持増進のための運動方法の学習。 2) 社会性および道徳性の育成。 3) 生涯スポーツに関連した自己開発能力の育成。</p>																																																			
授業計画	<table border="1"> <tr> <td rowspan="11">第1週</td> <td>オリエンテーション 次にあげる3つのコースから選択できる。 (第10時限までは、共通)</td> <td>第12週</td> <td>軽スポーツ(フリスビー、フラフープなど)</td> </tr> <tr> <td>1) 平常コース 2) スケート教室(12月下旬 3泊4日) 3) スキー教室(2月初旬 3泊4日) (スノーボードの体験授業がある。) 上記コースについて説明。</td> <td>第13週</td> <td>ソフトバレーボール</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>準備運動(ストレッチなど)</td> <td>第14週</td> <td>ソフトバレーボール</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>集団行動</td> <td>第15週</td> <td>ソフトバレーボール</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>スポーツマッサージ</td> <td>第16週</td> <td>卓球</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>テニス</td> <td>第17週</td> <td>卓球</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>テニス</td> <td>第18週</td> <td>卓球</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>テニス</td> <td>第19週</td> <td>バスケットボール</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>テニス</td> <td>第20週</td> <td>バスケットボール</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>バドミントン</td> <td>第21週</td> <td>バスケットボール</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>バドミントン</td> <td>第22週</td> <td>ドッジボール</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>バドミントン</td> <td>第23週</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>					第1週	オリエンテーション 次にあげる3つのコースから選択できる。 (第10時限までは、共通)	第12週	軽スポーツ(フリスビー、フラフープなど)	1) 平常コース 2) スケート教室(12月下旬 3泊4日) 3) スキー教室(2月初旬 3泊4日) (スノーボードの体験授業がある。) 上記コースについて説明。	第13週	ソフトバレーボール	第2週	準備運動(ストレッチなど)	第14週	ソフトバレーボール	第3週	集団行動	第15週	ソフトバレーボール	第4週	スポーツマッサージ	第16週	卓球	第5週	テニス	第17週	卓球	第6週	テニス	第18週	卓球	第7週	テニス	第19週	バスケットボール	第8週	テニス	第20週	バスケットボール	第9週	バドミントン	第21週	バスケットボール	第10週	バドミントン	第22週	ドッジボール	第11週	バドミントン	第23週	まとめ
第1週	オリエンテーション 次にあげる3つのコースから選択できる。 (第10時限までは、共通)	第12週	軽スポーツ(フリスビー、フラフープなど)																																																	
	1) 平常コース 2) スケート教室(12月下旬 3泊4日) 3) スキー教室(2月初旬 3泊4日) (スノーボードの体験授業がある。) 上記コースについて説明。	第13週	ソフトバレーボール																																																	
	第2週	準備運動(ストレッチなど)	第14週	ソフトバレーボール																																																
	第3週	集団行動	第15週	ソフトバレーボール																																																
	第4週	スポーツマッサージ	第16週	卓球																																																
	第5週	テニス	第17週	卓球																																																
	第6週	テニス	第18週	卓球																																																
	第7週	テニス	第19週	バスケットボール																																																
	第8週	テニス	第20週	バスケットボール																																																
	第9週	バドミントン	第21週	バスケットボール																																																
	第10週	バドミントン	第22週	ドッジボール																																																
第11週	バドミントン	第23週	まとめ																																																	
指導方法履修上の注意	<p>2) スケート・3) スキーコースに係る各諸費用については、全額学生の負担となる。体育着は自由である。シューズは体育館用、外用が必要である。</p>																																																			
成績評価の方法	<p>1) 平常コース 試験(40%)、授業態度(40%)、実技(20%) 2) スケート教室 試験(40%)、授業態度(40%)、実技(20%) 3) スキー教室 試験(40%)、授業態度(40%)、実技(20%)</p>																																																			
教科書	適宜、プリントを配布。																																																			
参考文献																																																				

授業科目	体 育 講 義	単位数	1	担当教員	山城屋正満・岡 芳郎
講義のねらいと概要	<p>短期大学における保健体育は、小学校、中学校、そして高等学校での体育、保健の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、科学的理論に基づいた幅広い教養を身につけることである。</p> <p>運動やスポーツは、正しい理解のもとに実施される健康と体力の維持増進に寄与できる。</p>				
授業計画	第1週	現代生活と運動			
	第2週	健康と体力			
	第3週	心身の発育発達と運動学習			
	第4週	スポーツの学習			
	第5週	体力の診断と体力づくり			
	第6週	トレーニング科学			
	第7週	社会体育			
	第8週	応急処置	(第8週で終了)		
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法 履修上の 注 意	授業の開始は11月である。				
成績評価の 方 法	試験(50%)、レポート(10%)、授業態度(40%)				
教 科 書	適宜、プリントを配布。				
参 考 文 献					

授業科目	心理学入門	単位数	2	担当教員	土橋 祐巳子
講義のねらいと概要	我々はよく自分や他者のこころに興味を持つ。そのような観点から心理学は一般的にも興味の対象となることが多い分野であるが、一方でその内容はよく知られていない。そこで本講義では、多岐にわたる様々な分野の心理学を紹介するとともに、特に人間理解の観点から心理学について学んでいく。また、本学科では様々な心理学関連科目が用意されているが、本講義を受講することによりそれらの科目をより理解するための基礎作りをしていきたい。				
授業計画	第1週	科学と人間のこころ			
	第2週	心理学の歴史			
	第3週	心理学の諸領域 1			
	第4週	心理学の諸領域 2			
	第5週	心理学の諸領域 3			
	第6週	認知からの人間理解			
	第7週	行動からの人間理解			
	第8週	パーソナリティからの人間理解			
	第9週	人間関係と心理学			
	第10週	身近な心理学			
	第11週	保育士と心理学			
	第12週	心理学の研究法			
	第13週	復習			
	第14週	筆記試験			
	第15週	試験の返却と解説			
指導方法履修上の注意	教科書を使用することが多いが、教科書では触れていない部分も扱うので、説明をよく聞くこと。				
成績評価の方法	筆記試験（90%）、授業態度（10%）				
教科書	『新体系看護学全書 基礎科目 心理学』（田中一彦・長田久雄編、メヂカルフレンド社）				
参考文献					

授業科目	マンガ・イラスト表現	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義のねらいと概要	マンガは絵と物語の両方を合わせた世界なので、デッサン、キャラクター、背景、パースなどの基本を複合的に進めていく形になると思います。絵を学ぶことで表現力が向上し、心が豊かになっていくことを考えています。				
授業計画	第1週	【 と を描こう】円と四角をちゃんと描けることが基本の基本。			
	第2週	【いろんな表情を描こう】表情が変化するパターンを学ぶ。			
	第3週	【喜怒哀楽の表情を描こう】感情表現を理解する。			
	第4週	【二頭身キャラを描こう】シンプルなマスコットキャラを描く。			
	第5週	【二頭身キャラのアクション】マスコットキャラにアクションを持たせる。			
	第6週	【三頭身キャラを描こう】ちびキャラを描く。			
	第7週	【三頭身キャラのアクション】ちびキャラにアクションを持たせる。			
	第8週	【一点透視図法を学ぼう】パースを理解する。			
	第9週	【二点透視図法と三点透視図法を学ぼう】パースを理解するの二回目。			
	第10週	【顔の角度を変えて描いてみよう】いろんな角度で顔を描けるようになる。			
	第11週	【倒れた瓶を模写してみよう】模写の仕方を学ぶ。			
	第12週	【シワの描き方を学ぼう】服などのシワの理屈を学ぶ。			
	第13週	【六頭身キャラを描いてみよう】シリアスサイズのキャラを学ぶ。			
	第14週	【全身で感情表現してみよう】感情とアクションを全身で描く。			
	第15週	【色を塗ってみよう】カラー表現を学ぶ。			
指導方法 履修上の 注意	絵を学ぶと云うことが、その他の分野での能力向上、人間性の豊かさの手助けにもなるということ念頭に置いて指導していければと考えています。				
成績評価の方法	課題（30%）、作品（20%）、実技（20%）、授業態度（30%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				

授業科目	日 本 語 表 現	単位数	2	担当教員	高 原 典 子																														
講義のねらいと概要	<p>本科目では主に絵本を活用して、読む・書く・話す・聞くという日本語表現について学びます。絵本は絵と文学から成る児童文化財ですが、簡潔でわかりやすい日本語の宝庫であると同時に、子どもに読み語るという表現力を培うことができるからです。</p> <p>また日本語の特性を学び、語彙を増やすために、漢字や慣用的な表現についての基礎的な知識の向上も図ります。読みやすい文字を書くための書写も取り入れ、保育者を志す過程で必要な総合的な日本語表現の習得を目指します。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1週</td> <td><本科目のねらいと絵本について>絵本の特長と絵本の文について学び、文章についての演習をする。 <漢字の学習 ></td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td><赤ちゃん絵本について >『くだもの』『もこ もこもこ』などを取り上げる。 <漢字の学習 ></td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td><赤ちゃん絵本について >『おつきさまこんばんは』『おんなじおんなじ』など。 <漢字の学習 ></td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td><絵本を読み合うグループワーク(1)>赤ちゃん絵本を各自持参して読み合い、乳児と絵本について考える。 <漢字の小テストとまとめ></td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td><3~4歳児と楽しむ絵本について >『あそぼうよ』『はじめてのおるすばん』など。 <熟語の学習 ></td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td><3~4歳児と楽しむ絵本について >『どろんこハリー』『ひとまねごさる』など。 <熟語の学習 ></td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td><絵本を読み合うグループワーク(2)>3~4歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <熟語の小テストとまとめ></td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td><4~5歳児と楽しむ絵本について >『くまのコールテンくん』『はじめてのおつかい』など。 <慣用的な表現 ></td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td><4~5歳児と楽しむ絵本について >『キャベツくん』『ラチとらいおん』など。 <慣用的な表現 ></td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td><絵本を読み合うグループワーク(3)>4~5歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <慣用的な表現 ></td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td><5~6歳児と楽しむ絵本について >『はちうえはほくにまかせて』『だいくとおにろく』など。 <慣用的な表現についての小テストとまとめ></td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td><5~6歳児と楽しむ絵本について >『おしいれのぼうけん』『かぜはどこへいくの』など。 <書写 >ペン字のひらがなとカタカナを書写する。</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td><絵本を読み合うグループワーク(4)>5~6歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <書写 >ペン字の名文を書写する</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td><絵本の文章表現について考える>絵本の文章を場面に合わせて書き、日本語の表現について考える。 <書写 >ペン字の名文を書写する</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>総まとめ</td> </tr> </table>					第1週	<本科目のねらいと絵本について>絵本の特長と絵本の文について学び、文章についての演習をする。 <漢字の学習 >	第2週	<赤ちゃん絵本について >『くだもの』『もこ もこもこ』などを取り上げる。 <漢字の学習 >	第3週	<赤ちゃん絵本について >『おつきさまこんばんは』『おんなじおんなじ』など。 <漢字の学習 >	第4週	<絵本を読み合うグループワーク(1)>赤ちゃん絵本を各自持参して読み合い、乳児と絵本について考える。 <漢字の小テストとまとめ>	第5週	<3~4歳児と楽しむ絵本について >『あそぼうよ』『はじめてのおるすばん』など。 <熟語の学習 >	第6週	<3~4歳児と楽しむ絵本について >『どろんこハリー』『ひとまねごさる』など。 <熟語の学習 >	第7週	<絵本を読み合うグループワーク(2)>3~4歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <熟語の小テストとまとめ>	第8週	<4~5歳児と楽しむ絵本について >『くまのコールテンくん』『はじめてのおつかい』など。 <慣用的な表現 >	第9週	<4~5歳児と楽しむ絵本について >『キャベツくん』『ラチとらいおん』など。 <慣用的な表現 >	第10週	<絵本を読み合うグループワーク(3)>4~5歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <慣用的な表現 >	第11週	<5~6歳児と楽しむ絵本について >『はちうえはほくにまかせて』『だいくとおにろく』など。 <慣用的な表現についての小テストとまとめ>	第12週	<5~6歳児と楽しむ絵本について >『おしいれのぼうけん』『かぜはどこへいくの』など。 <書写 >ペン字のひらがなとカタカナを書写する。	第13週	<絵本を読み合うグループワーク(4)>5~6歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <書写 >ペン字の名文を書写する	第14週	<絵本の文章表現について考える>絵本の文章を場面に合わせて書き、日本語の表現について考える。 <書写 >ペン字の名文を書写する	第15週	総まとめ
第1週	<本科目のねらいと絵本について>絵本の特長と絵本の文について学び、文章についての演習をする。 <漢字の学習 >																																		
第2週	<赤ちゃん絵本について >『くだもの』『もこ もこもこ』などを取り上げる。 <漢字の学習 >																																		
第3週	<赤ちゃん絵本について >『おつきさまこんばんは』『おんなじおんなじ』など。 <漢字の学習 >																																		
第4週	<絵本を読み合うグループワーク(1)>赤ちゃん絵本を各自持参して読み合い、乳児と絵本について考える。 <漢字の小テストとまとめ>																																		
第5週	<3~4歳児と楽しむ絵本について >『あそぼうよ』『はじめてのおるすばん』など。 <熟語の学習 >																																		
第6週	<3~4歳児と楽しむ絵本について >『どろんこハリー』『ひとまねごさる』など。 <熟語の学習 >																																		
第7週	<絵本を読み合うグループワーク(2)>3~4歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <熟語の小テストとまとめ>																																		
第8週	<4~5歳児と楽しむ絵本について >『くまのコールテンくん』『はじめてのおつかい』など。 <慣用的な表現 >																																		
第9週	<4~5歳児と楽しむ絵本について >『キャベツくん』『ラチとらいおん』など。 <慣用的な表現 >																																		
第10週	<絵本を読み合うグループワーク(3)>4~5歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <慣用的な表現 >																																		
第11週	<5~6歳児と楽しむ絵本について >『はちうえはほくにまかせて』『だいくとおにろく』など。 <慣用的な表現についての小テストとまとめ>																																		
第12週	<5~6歳児と楽しむ絵本について >『おしいれのぼうけん』『かぜはどこへいくの』など。 <書写 >ペン字のひらがなとカタカナを書写する。																																		
第13週	<絵本を読み合うグループワーク(4)>5~6歳児と楽しめる絵本をグループで読み語る。 <書写 >ペン字の名文を書写する																																		
第14週	<絵本の文章表現について考える>絵本の文章を場面に合わせて書き、日本語の表現について考える。 <書写 >ペン字の名文を書写する																																		
第15週	総まとめ																																		
指導方法 履修上の 注意	<p>本科目では、保育実践に役立つような絵本の読み語りのグループ演習を行います。</p> <p>また毎回、漢字および慣用的な表現などの基礎的な国語の学習も行います。知識の定着を図るために小テストもしますので、各自ワークシートを基に毎回の授業の復習を行ってください。</p>																																		
成績評価の 方法	筆記試験(40%) 授業中の小レポート(30%) 絵本の読み語り演習(30%)																																		
教科書	授業中、必要に応じてプリントを配布します。																																		
参考文献	『すてきな絵本にであえたら』(工藤左千夫 成文社)、『基礎からの国語表現の実践』(樺島忠夫他著 京都書房)、『受験・就職ことばの常識 問題1849』(土屋道雄編 日栄社)、『日本語表現のレッスン』長沼行太郎ほか著(教育出版)																																		

授業科目	生命と科学		単位数	2	担当教員	星野 治
講義のねらいと概要	<p>“生命と科学”というタイトルを見て、すぐに“遺伝子組み換え”云々というたぐいの話題を連想しがちであるが、ここでいう生命とは単なる生物個々の「いのち」だけにとどまらず、多数の生物が集まってできている組織体すなわち「社会」の「いのち」をも意味する。</p> <p>この授業では、地震をはじめとするさまざまな災害（危害）に立ち向かう、科学の実例を概観しながら、あらゆる災害（危害）から「いのち」を守るための教育指導がどうあるべきかを考える。</p>					
授業計画	第1週	ガイダンス				
	第2週	生命と科学とのせめぎ合い(1)：いきもの vs 機械				
	第3週	生命と科学とのせめぎ合い(2)：「いのち」の意味を考える				
	第4週	地震防災の基礎知識：地震の発生するしくみ、地震の観測、防災行政の実例、過去の被害地震				
	第5週	文芸作品と防災(1)：地震・津波、火山噴火、地殻変動				
	第6週					
	第7週	文芸作品と防災(2)：火災				
	第8週					
	第9週	文芸作品と防災(3)：地球温暖化				
	第10週					
	第11週	文芸作品と防災(4)：台風				
	第12週	文芸作品と防災(5)：水害				
	第13週					
	第14週	保育・幼児教育と防災：要援護者のための防災指導、生命を守る教育のありかた、その他				
	第15週	全体のまとめ				
指導方法 履修上の 注意	<p>講義形式による。話題に応じて、科学映画作品の鑑賞やネットサーフィンを随時実施する。</p> <p>授業期間中に複数回、レポート提出を求める。</p> <p>履修にあたり、特別な専門知識を事前にもっていることは前提としない。防災に関するいろいろな話題（緊急地震速報システム、超高層ビルディングの火災、大洪水、その他）に興味をもっている人や、科学映画作品が好きな人は、ぜひ参加して欲しい。</p>					
成績評価の方法	レポート（80%） 授業態度（20%）					
教科書	必要に応じて随時紹介する。					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授業科目	生命と科学	単位数	2	担当教員	玉城 武
講義のねらいと概要	美しくありたい。私達だれもが抱く願望である。本講義では身近でかつ最も関心の高いと思われる“美しく生きる”を重点テーマとする。美しく生きることは精神的に豊かでかつ肉体的に美しいという大きく2つの要素を有していると思われる。美しい肌とは潤いがあるためなめらかで張りがあり、かつ弾力があり血色が良いことである。その美しさは加齢とともに劣えていくが、正しい知識をもって肌をケアすれば長期に渡ってその美しさを維持することができ、老化を遅くすることができる。正しい知識をマスターすることを念頭に講義を行う。				
授業計画	第1週	美しく生きるとは			
	第2週	豊かな心			
	第3週	美しい体			
	第4週	潤いがあるためなめらかで張りがあり、かつ弾力があるため血色のよい肌			
	第5週	スキンケア・・・化粧水、クリームについて			
	第6週	美しい肌をつくるために役立つ食とは			
	第7週	肌のトラブル・・・ニキビ、アトピーについて			
	第8週	心のストレス			
	第9週	ストレスをどう解消するか			
	第10週	涙を流すことの意味			
	第11週	笑いと涙			
	第12週	自分の体質について知ろう			
	第13週	体質にあった食養生			
	第14週	美しくやせるとは			
	第15週	全体のまとめ			
指導方法履修上の注意	パワーポイント等の機器を用いて講義する。知識を修得すると同時に、学んだことを日常生活で実践し、生活の質の向上にいかして欲しい。できるだけ学生が主体となる授業をめざすので、学生の意欲的な参加と、その態度を重視する。				
成績評価の方法	筆記試験・レポート(60%)、授業態度(40%)				
教科書					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。				

授業科目	教 育 原 理	単位数	2	担当教員	金子 真由子
講義のねらいと概要	<p>これからの教育のあり方について考える態度を身につけるために、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的事項について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <p>教育の目的、方法、評価について理解し、説明できる。</p> <p>教育の基本的な原理を理解し、現代の教育の特徴や構造について説明できる。</p> <p>教育の現状と課題について深く考え、それを具体的に説明できる。</p>				
授業計画	第1週	授業ガイダンス：教育を受けるものから、する者へのまなざしの転換			
	第2週	教育とは何か：教育の目的			
	第3週	学校とは何か（1）：学校の成り立ち			
	第4週	学校とは何か（2）：学校空間の特徴			
	第5週	子どもとは何か：子どもへのまなざし			
	第6週	保育文化論：保育における「遊び」を考える			
	第7週	学ぶこと、教えること（1）：「学ぶ」こと			
	第8週	学ぶこと、教えること（2）：「教える」 - 「学ぶ」という関係			
	第9週	保育・教育思想（1）：コメニウス、ルソー、ペスタロッチなど			
	第10週	保育・教育思想（2）：フレーベル、デューイ、モンテッソーリなど			
	第11週	現代社会と教育問題			
	第12週	カリキュラムと評価			
	第13週	現代教育の法的な側面			
	第14週	教育の今日的課題			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>プリントを配布するので、プリントや学習内容を記録したものを1冊のノート（ファイル）にまとめること。</p> <p>グループワークや討論、発表などを適宜組み込むので、授業には積極的に参加すること。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（60％）、課題（20％）、授業態度（20％）				
教科書	特になし。				
参考文献	『教育原理』（広田照幸・塩崎美穂、樹村房）				

授業科目	保 育 原 理	単位数	2	担当教員	土 屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所・幼稚園は、常に、子どもの生活にふさわしい場になりえているか、遊びを中心とした保育内容と保育者の意図が含まれた保育・教育の展開がなされているかが問われている。</p> <p>講義では、子どもの捉え方を含めた保育の基本的な考え方、環境構成や子どもにとっての遊びの重要性、子どもの発達や年齢に応じた配慮及び留意点、保育課程・教育課程や指導計画、さらには保育思想を学び、子どもの生活に“ふさわしい”保育の原理を理解するために必要な知識や基本的な考え方を身につけることをねらいとする。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション あらためて子どもとは			
	第2週	幼稚園・保育所のしくみ			
	第3週	保育の基本的な考え方 保育の目標、環境			
	第4週	子どもの権利、最低基準			
	第5週	ねらいと内容、領域、保育形態			
	第6週	保育の視点を養う 保育者の意図に気づく			
	第7週	保育者のことば			
	第8週	子どもの遊び 遊びとは何か			
	第9週	遊びと発達、環境とのかかわりと遊び			
	第10週	子どもの発達 発達とは、子どもらしさの見直し			
	第11週	かかわりのなかで見続けること			
	第12週	子どもの生活 デイリー・プログラム			
	第13週	生活に必要な習慣、生活技術			
	第14週	保育課程・教育課程と指導計画			
	第15週	保育者に求められるもの			
指導方法履修上の注意	他の受講生の意見や考え方を聞き、自分の考えと相対化することで自分の考えをさらに深めてほしい。				
成績評価の方法	筆記試験（70％） 課題（20％） 授業態度（10％）				
教科書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針』（文部科学省・厚生労働省、チャイルド社）				
参考文献	授業において紹介する。				

授業科目	教育心理学	単位数	2	担当教員	魚崎 祐子
講義のねらいと概要	<p>保育者として子どもたちを相手にしていく際に必要となる教育心理学の基礎知識を獲得し、教育活動について考えていくために、子どもの発達と学習を中心とした授業を行う。</p> <p>教育心理学の知見を学ぶことにより、保育の現場において出会う様々な問題を適切にとらえ、ふさわしい対処のあり方を探し出せるようになることをめざす。</p>				
授業計画	第1週	教育心理学とは：なぜ教育心理学を学ぶ必要があるのか			
	第2週	教育心理学における研究法：子どもたちを知るためにどのような方法が用いられるのか			
	第3週	乳幼児の発達：認知はどのように発達するのか			
	第4週	乳幼児の発達：言語はどのように発達するのか			
	第5週	乳幼児の発達：社会性はどのように発達するのか			
	第6週	乳幼児の発達：性格はどのように形成されるのか			
	第7週	様々な学習：学習にはどのような種類があるのか、子どもたちはどのように学習をしているのか			
	第8週	学習における認知過程：人間の認知にはどのような過程があるのか			
	第9週	動機づけ：学習へのやる気を高めるためにはどうすればよいのか			
	第10週	個人差と指導：どのような個人差を考慮すべきか、どのような教え方があるのか			
	第11週	発達障害：どのような発達障害があるのか、発達障害の子どもを伸ばすには？			
	第12週	こころの問題：こころの問題はどのように表れるのか			
	第13週	教育活動の測定と評価：教育における評価とは？どのように測定されるのか			
	第14週	保育と教育心理学とのつながり：保育者にはどのような役割が求められるのか			
	第15週	試験およびこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>資料を配布するが、要約されたものなので講義を聴きながら積極的にメモをとり、オリジナル教材にしてほしい。配布物は復習および試験のためにすべて保管すること。毎回、小課題を与えて考えを書いてもらう予定である。自分自身の子ども時代を振り返りながら、講義の内容を結び付けて理解に努めること。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、レポート（20%）、課題（20%）、授業態度（10%）				
教科書					
参考文献	『保育のための教育心理学』（塚原明、ブレーン出版）、『精選コンパクト教育心理学』（北尾倫彦他、北大路書房）				

授業科目	発達心理学	単位数	2	担当教員	伊藤明芳
講義のねらいと概要	<p>保育者が子ども（保護者）の問題や課題に向き合う時、人の心身の発達の基本的、標準的な様相やその概要等を学んでおくことは有益である。それらが、保育者として、さまざまな子どもの問題を考えていく際の大切な基礎となる。</p> <p>本講義では、発達心理学の必要な基礎的知識の習得と将来現場で活かせる基本的な実践能力の育成を図ることを目的とする。</p>				
授業計画	第1週	イントロダクション [発達心理学を学ぶ意義など]			
	第2週	発達を理解するための基礎 [発達を考える]			
	第3週	発達を理解するための基礎 [研究方法、子どもの心身発達の基本原理等]			
	第4週	発達を理解するための基礎 [発達の理論とは何か]			
	第5週	知的側面の発達 [基本理論の概要]			
	第6週	知的側面の発達 [理論の活用を考える]			
	第7週	情緒的発達 [情緒的発達の過程]			
	第8週	情緒的発達 [基本理論の概要]			
	第9週	情緒的発達 [理論の特徴]			
	第10週	情緒的発達 [理論の活用を考える]			
	第11週	発達障害 [発達障害とは何か]			
	第12週	発達障害 [発達障害の種類]			
	第13週	発達障害 [理解と対応を考える]			
	第14週	まとめ			
	第15週	今後へのアドバイスと試験			
指導方法 履修上の 注意	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、それを保育の実践に活かすことを考える。</p> <p>受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（60%）、レポート（40%）				
教科書	特に指定しない				
参考文献	講義の際に随時紹介				

授業科目	子どもの保健		単位数	4	担当教員	駒松仁子
講義のねらいと概要	<p>小児保健は子どもの心身の健康増進を図ることを目的とする。小児保健と福祉サービスおよび、わが国の小児保健水準を理解する。子どもの特徴は成長・発達することである。各発達段階における発育・発達の特徴や発育・発達の評価法、さらには子どもによく見られる疾病とその予防、生活環境が子どもの心身に及ぼす影響、事故防止と安全対策等について学ぶ。</p>					
授業計画	第1週	子どもの健康と保健の意義	第16週	子どもの疾病と保育(1) (感染症)		
	第2週	子どもの保健と福祉サービス	第17週	子どもの疾病と保育(2) (感染症)		
	第3週	わが国の小児保健水準(1)	第18週	子どもの疾病と保育(3) (呼吸器疾患)		
	第4週	わが国の小児保健水準(2)	第19週	子どもの疾病と保育(4) (消化器疾患)		
	第5週	発育・発達段階の特性	第20週	子どもの疾病と保育(5) (アレルギー疾患)		
	第6週	身体発育とその評価	第21週	子どもの疾病と保育(6) (アレルギー疾患)		
	第7週	脳神経・感覚器の発達	第22週	子どもの疾病と保育(7) (循環器疾患)		
	第8週	運動機能の発達と評価	第23週	子どもの疾病と保育(8) (腎臓疾患)		
	第9週	精神機能の発達(言語・情緒)	第24週	子どもの疾病と保育(9) (内分泌疾患)		
	第10週	精神機能の発達と評価(社会性・知能, 評価)	第25週	子どもの疾病と保育(10) (小児がん)		
	第11週	生理機能の発達(1)(呼吸・循環)	第26週	子どもの疾病と保育(11) (染色体異常・先天性代謝異常)		
	第12週	生理機能の発達(2)(体温・水分代謝)	第27週	子どもの生活環境と精神保健		
	第13週	生理機能の発達(3)(消化・吸収, 排泄)	第28週	健康教育と安全対策		
	第14週	生理機能の発達(4)(睡眠・免疫・内分泌)	第29週	事故と安全対策		
	第15週	試験	第30週	試験		
指導方法 履修上の 注意	配布資料やビデオなどを用いて講義を行う。					
成績評価の 方法	筆記試験(80%)、授業態度(20%)					
教科書	指定なし。授業の都度、資料を配布する。					
参考文献	授業の都度、参考文献を提示する。					

授業科目	社 会 福 祉	単位数	2	担当教員	秋 山 展 子
講義のねらいと概要	本講義では、現代社会における福祉制度の意義や理念，福祉政策との関係，福祉政策におけるニーズと資源，福祉政策の構成要素やその課題などについて学ぶことを目的としている。				
授業計画	第1週	社会福祉の新たな展開			
	第2週	福祉政策理解の枠組み			
	第3週	社会の変化と福祉			
	第4週	福祉と福祉政策			
	第5週	福祉の思想と哲学			
	第6週	社会政策と福祉政策			
	第7週	福祉政策の発展過程			
	第8週	少子高齢化時代の福祉背景			
	第9週	福祉政策における必要と資源			
	第10週	福祉政策の理念・主体・手法			
	第11週	福祉政策の関連領域			
	第12週	社会福祉制度の体系			
	第13週	福祉サービスの提供			
	第14週	福祉政策の国際比較			
	第15週	福祉政策の課題と展望			
指導方法 履修上の 注 意					
成績評価の 方 法	筆記試験（60％）、レポート（10％）、授業態度（30％）				
教 科 書	『新・社会福祉士養成講座 第4巻 現代社会と福祉 社会福祉原論 第3版』（社会福祉士養成講座編集委員会 編集、中央法規出版）				
参 考 文 献					

授業科目	児童家庭福祉	単位数	2	担当教員	秋山展子
講義のねらいと概要	現代社会における児童の成長・発達、生活実態や児童福祉の背景、児童福祉の理念や意義について学ぶ。児童福祉関係法とサービス体系の供給、専門職のあり方や児童福祉と環境との関わりの問題、相談援助活動や家族支援のための施策等について理解する。				
授業計画	第1週	現代社会と子ども家庭			
	第2週	子どもの育ち、子育てのニーズ			
	第3週	子ども家庭福祉とは何か			
	第4週	子どもと家庭の権利保障			
	第5週	子ども家庭福祉にかかわる法制度			
	第6週	子ども家庭福祉の実施体制			
	第7週	子ども家庭福祉の専門職			
	第8週	子ども家庭にかかわる福祉・保健			
	第9週	児童健全育成			
	第10週	ひとり親家庭の福祉			
	第11週	児童虐待対策			
	第12週	非行児童・情緒障害児への支援			
	第13週	子どもと家庭にかかわる女性福祉			
	第14週	子ども家庭への援助活動			
	第15週	施設ケアと子ども家庭福祉援助活動			
指導方法 履修上の 注意					
成績評価の 方法	筆記試験（60％）、レポート（10％）、授業態度（30％）				
教科書	『新・社会福祉士養成講座 第15巻児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 児童福祉論 第3版』（社会福祉士養成講座編集委員会 編集、中央法規出版）				
参考文献					

授業科目	音楽（基礎音楽）		単位数	2	担当教員	大輪公吉
講義のねらいと概要	幼児教育者として必要な音楽の基礎知識を学ぶと共に、音楽教育技術を身につけることを目的とする。					
授業計画	第1週	楽典（譜表）	第16週	合奏の必要性と編曲		
	第2週	（音名・階名）	第17週	合奏の指導法・演奏法		
	第3週	（楽語）	第18週	リズム楽器の演奏法		
	第4週	（省略記号）	第19週	伴奏楽譜を使用した編曲法		
	第5週	（音程）	第20週	〃		
	第6週	（調について）	第21週	オリジナルの編曲		
	第7週	（和音）	第22週	〃		
	第8週	コードネームを使用した伴奏付け	第23週	発表		
	第9週	コードネームの理解	第24週	簡単な言葉によるメロディー創り		
	第10週	伴奏形の理解	第25週	〃		
	第11週	調性音楽における主要三和音	第26週	言葉とリズムの関係(リズム唱の説明)		
	第12週	伴奏譜作成	第27週	〃		
	第13週	〃	第28週	記譜法		
	第14週	〃	第29週	発表		
	第15週	まとめ	第30週	まとめ		
指導方法 履修上の 注意	講義内容を理解出来ないまま終わらせたくありません、質問を歓迎します。 （授業時間外でもかまいません） 授業中の私語は真面目に受講している者にとって迷惑です。厳しく注意します。					
成績評価の方法	筆記試験（30%） レポート（20%） 課題（10%） 作品（10%） 発表（10%） 実技（10%） 授業態度（10%）					
教科書	『「幼児の音楽教育」 - 音楽表現の指導 - 』（音楽教育研究協会）					
参考文献	『改訂・楽器奏法の基礎指導』（大山美和子編、音楽教育研究協会） 『実用こどものうた』（田口・高崎編、カワイ出版）					

授業科目	総合演習			単位数	2	担当教員	橋本洋子・星野治・高原典子			
講義のねらいと概要	<p>現代は少子社会が進む中様々な対策がなされているが、子どもが安心して育つ環境が十分に整えられているとはいえない。</p> <p>そこで、本演習では食育、児童文化財、防災など子どもを取り巻く環境の実状を理解し、視野を広げるとともに、保育者として適切な対応ができる保育力を養成する。</p>									
授業計画	第1週	合同授業 本演習のねらい・進め方などに関する説明			第16週	(星野)	(高原)	(橋本)		
	第2週	(橋本) 演習の方針	(星野) 演習の方針	(高原) 演習の方針	第17週	第7週 ~第10週 と同じ	第7週 ~第10週 と同じ	第7週 ~第10週 と同じ		
	第3週	子どもの食生活の現状	防災の基礎知識	手あそびの発表	第18週					
	第4週	論文の検索と読み方	文芸作品と防災(1)	手あそびの創作と発表	第19週					
	第5週	健康を考える(1)	文芸作品と防災(2)	保育実技の論文を読む1	第20週	(高原)	(橋本)	(星野)		
	第6週	健康を考える(2)	保育と防災	手袋人形の創作	第21週	第2週 ~第10週 と同じ	第2週 ~第10週 と同じ	第2週 ~第10週 と同じ		
	第7週	文献調査	文芸作品と防災(3)	手袋人形の創作	第22週					
	第8週	研究発表準備	文芸作品と防災(4)	手袋人形の演じ方	第23週					
	第9週	研究発表(1)	防災関連の最新情報	保育実技の論文を読む2	第24週					
	第10週	研究発表(2) 演習まとめ	演習まとめ	論文の要旨をまとめる	第25週					
	第11週	(星野)	(高原)	(橋本)	第26週					
	第12週	第2週 ~第6週 と同じ	第2週 ~第6週 と同じ	第2週 ~第6週 と同じ	第27週					
	第13週									
	第14週									
	第15週				第29週	合同授業 総合演習 への準備、その他				
				第30週	合同授業 全体のまとめ					
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年を3つのグループに分け、教員ごとに9回単位ずつの演習を行う。 ・グループごとの演習期間中は(第2週~第28週)、調査・討議・発表を中心に行うので、各自、担当教員の指導に従って積極的にテーマに取り組むこと。 ・調査等については、授業時間外に実施することがある。 									
成績評価の方法	レポート(40%)、発表(40%)、授業態度(20%)									
教科書	各学生のテーマに沿った教科書を、必要に応じて随時紹介する。 入手困難な資料類は、担当教員が準備する。									
参考文献	各学生のテーマに沿った参考文献を、必要に応じて随時紹介する。 入手困難な資料類は、担当教員が準備する。									

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	近 喰 晴 子
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、保育内容、方法、環境、教材研究など保育現場に密着した分野を中心とし、文献や視聴覚教材、施設見学、調査研究などを通し論文をまとめる。</p>					
授業計画	第1週	授業の進め方	第16週	研究論文の執筆		
	第2週	文献、視聴覚教材による基礎研究	第17週	"		
	第3週	"	第18週	"		
	第4週	テーマの設定	第19週	"		
	第5週	"	第20週	"		
	第6週	文献、資料などの収集	第21週	"		
	第7週	"	第22週	"		
	第8週	"	第23週	"		
	第9週	調査、研究の方法	第24週	中間発表		
	第10週	"	第25週	論文の修正		
	第11週	論文の執筆について	第26週	"		
	第12週	中間発表	第27週	"		
	第13週	"	第28週	論文発表		
	第14週	論文の検討	第29週	"		
	第15週	"	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし					
参考文献	特になし。必要に応じ紹介する。					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	橋本洋子
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、子ども・保護者・保育者など子どもを取り巻く食環境や健康全般にわたる。「食物アレルギー」「母乳」「妊産婦の食生活」「食教育」「子どもの肥満」「好き嫌いと偏食」などを中心とし、保育所等でのフィールドワーク、文献研究、調査等から論文としてまとめる。</p>					
授業計画	第1週	講義の方針と進め方について	第16週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第2週	各学生により研究テーマの選定・計画	第17週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第3週	各学生により研究テーマの選定・計画	第18週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第4週	各学生により研究テーマの選定・計画	第19週	論文の執筆・フィールドワーク		
	第5週	文献・資料収集、観察	第20週	論文の執筆・データ解析		
	第6週	文献・資料収集、観察	第21週	論文の執筆・データ解析		
	第7週	文献・資料収集、観察	第22週	論文の執筆・データ解析		
	第8週	先行研究の発表	第23週	論文の執筆・データ解析		
	第9週	先行研究の発表	第24週	論文の執筆・データ解析		
	第10週	先行研究の発表	第25週	論文の修正		
	第11週	研究内容の方向づけ	第26週	論文の修正		
	第12週	研究内容の方向づけ	第27週	論文の修正		
	第13週	論文執筆の説明	第28週	論文発表		
	第14週	論文内容の検討	第29週	論文発表		
	第15週	論文内容の検討	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>ここでは「食」や「健康」などに関連する様々な分野から、演習生それぞれが興味に基づき研究をすすめていく。保育者としての視点からテーマをもち文献研究および観察研究をして、論文としてまとめていく。それぞれが自分の研究テーマに向かって積極的に取り組むことを期待する。先行論文や白書などを参考に情報を収集し、綿密な計画を立て、取り組んでほしい。</p>					
成績評価の方法	<p>論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）</p>					
教科書	特になし					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、臨床心理学に関連する「母子関係」「保育者のメンタルケア」「子育て支援」などを中心とする。</p>					
授業計画	第1週	講義の方針と年間計画	第16週	論文の執筆		
	第2週	各学生によるテーマの選定	第17週	論文の執筆		
	第3週	各学生によるテーマの選定	第18週	論文の執筆		
	第4週	各学生によるテーマの選定	第19週	論文の執筆		
	第5週	文献の収集	第20週	論文の執筆		
	第6週	文献の収集	第21週	論文の執筆		
	第7週	文献の収集	第22週	論文の執筆		
	第8週	先行研究の発表	第23週	論文の執筆		
	第9週	先行研究の発表	第24週	論文の執筆		
	第10週	先行研究の発表	第25週	論文の執筆		
	第11週	先行研究の発表	第26週	論文の修正		
	第12週	先行研究の発表	第27週	論文の修正		
	第13週	論文執筆の説明	第28週	論文発表会		
	第14週	論文内容の検討	第29週	論文発表会		
	第15週	論文内容の検討	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし					
参考文献	特になし					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>主なテーマとしては、「保育内容」「子どもの生活・遊びや文化に関すること」「育児」についてなどである。保育所・幼稚園・家庭をフィールドとする質的研究および文献研究を行い、論文としてまとめることを目的とする。</p>					
授業計画	第1週	講義の方針と年間計画	第16週	調査の実施		
	第2週	保育所や幼稚園の見学	第17週	調査の実施		
	第3週	保育所や幼稚園の見学	第18週	結果の整理		
	第4週	研究テーマの選定	第19週	結果の整理		
	第5週	研究テーマの選定	第20週	結果の整理		
	第6週	テーマについて必要な文献を集める	第21週	考察を進める		
	第7週	テーマについて必要な文献を集める	第22週	考察を進める		
	第8週	先行研究の検討	第23週	考察を進める		
	第9週	先行研究の検討	第24週	結論および今後の課題の検討		
	第10週	先行研究の検討	第25週	結論および今後の課題の検討		
	第11週	問題の所在を明らかにする	第26週	論文の修正		
	第12週	問題の所在を明らかにする	第27週	論文の修正		
	第13週	調査方法および分析の視点の検討	第28週	論文発表会		
	第14週	テーマ・問題の所在・調査方法の発表	第29週	論文発表会		
	第15週	テーマ・問題の所在・調査方法の発表	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	研究テーマを明確にすること、必要な文献をしっかりと読みこなすことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし					
参考文献	『大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康、講談社新書） 『論文の教室』（戸田山和久、NHKブックス）					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	大輪公吉
講義のねらいと概要	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	中間報告		
	第2週	音楽領域研究の方法	第17週	論文の推敲		
	第3週	〃	第18週	〃		
	第4週	〃	第19週	〃		
	第5週	テーマの設定とグループ分け	第20週	最終報告		
	第6週	テーマの決定	第21週	〃		
	第7週	テーマに関する図書研究	第22週	〃		
	第8週	〃	第23週	〃		
	第9週	〃	第24週	卒業論文指導		
	第10週	資料検索と論文書式	第25週	〃		
	第11週	〃	第26週	〃		
	第12週	〃	第27週	〃		
	第13週	中間報告	第28週	〃		
	第14週	〃	第29週	卒業論文報告		
	第15週	〃	第30週	〃		
	指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。				
成績評価の方法	論文(100%)*論文提出の締め切りは12/21 *提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う。					
教科書	授業内で指示					
参考文献	授業内で指示					

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	星野 治
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成します。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われます。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深めます。</p> <p>本演習では、「防災」「情報」「数量」などの任意のキーワードと保育・幼児教育との相互関係を、既存資料の中から採り出し、総合報告（レビュー）の形で整理します。レビューの作成を通して、保育・幼児教育のありかたに関する各自の考えをまとめます。</p>					
授業計画	第1週	前期ガイダンス （演習の目的、進めかたなど）	第16週	後期ガイダンス （卒論テーマ、論文の書きかた）		
	第2週	既存資料の紹介・鑑賞(1) （資料の検索・選択）	第17週	既存資料の紹介・鑑賞(13) （特定の視点からみた複数の資料の選択）		
	第3週	既存資料の紹介・鑑賞(2) （資料の内容の読解）	第18週	既存資料の紹介・鑑賞(14) （複数資料の総合評価）		
	第4週	既存資料の紹介・鑑賞(3) （資料の内容に対する解釈・考察）	第19週	既存資料の紹介・鑑賞(15) （複数資料の総合評価の文章化）		
	第5週	既存資料の紹介・鑑賞(4) （資料に関するレポートの作成）	第20週	既存資料の紹介・鑑賞(16) （複数資料の総合評価の発表）		
	第6週	既存資料の紹介・鑑賞(5) （資料に関するレポートの発表）	第21週	第17週～第20週のまとめ		
	第7週	既存資料の紹介・鑑賞(6) （資料に関するレポートの発表）	第22週	卒論の作成(1) （卒論テーマの決定）		
	第8週	第2週～第7週のまとめ		第23週 卒論の作成(2) （卒論作成方針の決定）		
	第9週	既存資料の紹介・鑑賞(7) （類似テーマを扱った複数の資料の選択）	第24週	卒論の作成(3) （総合報告の文章化）		
	第10週	既存資料の紹介・鑑賞(8) （複数資料の内容の読解）	第25週	卒論の作成(4) （卒論内容の中間発表）		
	第11週	既存資料の紹介・鑑賞(9) （複数資料の内容に対する解釈・考察）	第26週	卒論の作成(5) （卒論の加筆修正）		
	第12週	既存資料の紹介・鑑賞(10) （複数資料に関するレポートの作成）	第27週	卒論の作成(6) （卒論の完成および提出）		
	第13週	既存資料の紹介・鑑賞(11) （複数資料に関するレポートの発表）	第28週	卒論の作成(7) （卒論内容の本発表）		
	第14週	既存資料の紹介・鑑賞(12) （複数資料に関するレポートの発表）	第29週	卒論の作成(8) （卒論の最終修正）		
	第15週	第9週～第14週のまとめ		第30週 全体のまとめ		
指導方法履修上の注意	<p>1. 文献等（文芸作品、学術論文、その他）の輪講および鑑賞が、主な授業内容となります。</p> <p>2. 総合報告の作成には、できる限り多数の資料を参照することが必要です。授業期間内に利用した資料はできる限り、卒論作成に活かすことが望ましいと考えます。</p> <p>3. 卒論作成の具体的な作業方針としては、次の二通りが考えられます。</p> <p style="padding-left: 2em;">[1] 卒論テーマを最初から意識した資料の選定。</p> <p style="padding-left: 2em;">[2] 選定した資料に基づく卒論テーマの絞り込み。</p> <p>これまでの卒論指導の経験上、できる限り作業方針[1]を推奨します。卒論テーマの絞り込みが遅くなればなるほど、論文の執筆開始もまた遅くなります。上記の「授業計画」では後期中盤に卒論テーマの決定を行うとありますが、実際には、前期のうちに卒論テーマの概要を固めておかないと、作業時間不足のため“生煮えの卒論”を提出する破目になります。</p> <p>4. 入手困難な資料類（例：他大学付属図書館の所蔵する学術論文、出版時期の古い雑誌、その他）が必要となった場合、早めに担当教員へ相談してください。</p>					
成績評価の方法	論文（70%）[平成24年度の論文提出締切日は12月21日] 発表（20%）[提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う] 授業態度（10%）					
教科書	必要に応じて指定します。					
参考文献	必要に応じて随時紹介します。					

授業科目	総合演習（卒業研究）	単位数	2	担当教員	伊藤明芳
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じて保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマ；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達心理学など、子どもや教育に関わる心理学分野 2. 「子育て支援」に関する分野 3. 「保育相談」、「カウンセリング」などの分野 				
授業計画	第1週	本ゼミの方針と年間計画	第16週	論文執筆	
	第2週	論文作成についての概説	第17週	論文執筆	
	第3週	各学生による研究テーマの選定	第18週	論文執筆	
	第4週	各学生による研究テーマの選定	第19週	論文執筆	
	第5週	各学生による研究テーマの選定	第20週	論文執筆	
	第6週	各学生による研究テーマの選定	第21週	論文執筆	
	第7週	文献・資料収集	第22週	論文執筆	
	第8週	文献・資料収集	第23週	論文執筆	
	第9週	文献・資料収集	第24週	論文の修正	
	第10週	卒論計画の発表	第25週	論文の修正	
	第11週	卒論計画の発表	第26週	論文の修正	
	第12週	卒論計画の発表	第27週	論文の修正	
	第13週	論文執筆の説明	第28週	論文発表会	
	第14週	論文内容の検討	第29週	論文発表会	
	第15週	論文内容の検討	第30週	まとめ	
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にして、根気強く、楽しく卒業研究に取り組むことを期待する。				
成績評価の方法	論文（70%）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20%）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10%）				
教科書	特に指定しない				
参考文献	講義の際に随時紹介				

授業科目	総合演習（卒業研究）		単位数	2	担当教員	金子 真由子
講義のねらいと概要	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、子どもと環境（他者、空間、情報など）との関係、もしくは保育者の専門性を中心とし、文献、視聴覚教材、調査、フィールドワークなどを通して論文をまとめる。</p>					
授業計画	第1週	授業の進め方	第16週	論文の執筆		
	第2週	文献、視聴覚教材による基礎研究	第17週	論文の執筆		
	第3週	文献、視聴覚教材による基礎研究	第18週	論文の執筆		
	第4週	研究テーマの設定	第19週	論文の執筆		
	第5週	研究テーマの設定	第20週	論文の執筆		
	第6週	研究方法の理解 - 文献・資料の収集 -	第21週	論文の執筆		
	第7週	研究方法の理解 - 文献・資料のまとめ方 -	第22週	論文の執筆		
	第8週	研究方法の理解 - 調査・研究の方法 -	第23週	論文の執筆		
	第9週	論文の構成	第24週	中間発表		
	第10週	論文の構成	第25週	論文の修正		
	第11週	中間発表	第26週	論文の修正		
	第12週	中間発表	第27週	論文の修正		
	第13週	論文の執筆	第28週	論文発表		
	第14週	論文の執筆	第29週	論文発表		
	第15週	論文の執筆	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					
成績評価の方法	論文（70％）#論文提出の締め切りは12/21、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）					
教科書	特になし。					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授業科目	地 域 活 動	単位数	2	担当教員	松 田 鉄 蔵
講義のねらいと概要	<p>1年次を中心に、児童館・障害者関係施設・教育関係機関・行政等が実施する「学校が指定する活動」に参加、居住地域で、福祉的な活動を自らが探して活動参加、の2点の活動からなる。地域の社会資源の理解、様々な人々と出会い、会話を通して関係を上げると同時に、行事の準備と参加、片付け等、多様な場での活動経験は、責任感、積極性、協調性といった社会性や人間力を育むいい機会であり、種々の場での活動経験は就職の幅の広がりにも通じる。実施は、土・日・祝日と長期休暇中で、指定回数の活動への参加と、活動レポートの提出を行う。</p>				
授業計画	<p>4月に、個人毎に学校が指定する「活動参加先の一覧」を配布する。実施期間は主として、土・日・祝日と長期休暇中で、一人の参加回数は、施設等からの依頼数により異なるが、概ね10～12回を予定、個人毎に施設種別、参加日が年間で均一になるように参加先の配置を行う。</p> <p>活動内容は、直接的に本人と関わる活動（お祭りで一緒に買い物をする、作品の制作、一緒に調理をする等）と、間接的（環境整備、バザーの販売担当）に関わる部分の参加で、現地までの交通費・食事は、一部補助のある行事もあるが、基本的には自己負担とする。</p> <p>地域活動の基本は、「自らの意思から活動への参加」であろう。そこで居住地域の社会資源の理解や、住民としての意識高揚のためにも、各自治体等が募集する活動や保育所・福祉施設・児童館等々で、自ら活動先を見つけ、自主的に参加を行う(活動の範囲については別途指示)こととする。この部分は5日間程度の活動参加を基本に、レポートと、参加確認書（別途配布）の提出で、参加の確認を行うものとする。</p> <p>学校が指定する行事参加は、学生個人への事故等の保証と、学生の行為による対物破損の保険に学校の方で一括加入するのでこれに対応するが、自らの活動については、この保険の対象外であるので、社会福祉協議会を窓口とする「保険」に自らが加入するものとする。</p> <p>秋に高齢者・障害者等への活動促進のため、車椅子・白杖体験会(駅ボランティア体験会)を所沢市、西武鉄道との共同事業として実施する。</p> <p>金曜日の2時限目に、活動の主催者を招いての活動概要説明会、個々の活動参加のための情報提供、活動参加しての感想や、課題を述べる授業を実施する。</p>				
指導方法 履修上の 注 意					
成績評価の 方 法	レポート(40%) 授業態度(10%) 出席(50%)				
教 科 書					
参 考 文 献					

授業科目	地 域 活 動		単位数	2	担当教員	橋 本 洋 子
講義のねらいと概要	<p>地域ボランティア活動 は、「地域ボランティア活動 」の実践を土台に2年次に行う。活動場所は主にそれぞれの居住地域の保育所、児童館、学童クラブ、障害児・者関係施設、養護学校等とし、一年を通して水曜日に、同じ場所にて活動する。学校での学びを「実際の場」で実践（活動）することで、対象児・者と直接的に触れ、自らの技術・技能を高め、さらに仕事の実際の理解を深めることを目的とする。</p> <p>それぞれが積極的に活動に参加し、毎回ボランティア活動記録（日誌）を作成することで自己を振り返り、子育て支援をはじめとする保育者の職務にたいしての理解を深めて欲しい。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	事前指導（後期）		
	第2週	活動計画 活動目的、活動場所の選定など	第17週	地域活動		
	第3週	活動計画	第18週	地域活動		
	第4週	活動計画	第19週	地域活動		
	第5週	事前指導（前期）	第20週	地域活動		
	第6週	地域活動	第21週	地域活動		
	第7週	地域活動	第22週	地域活動		
	第8週	地域活動	第23週	地域活動		
	第9週	地域活動	第24週	地域活動		
	第10週	地域活動	第25週	地域活動		
	第11週	地域活動	第26週	地域活動		
	第12週	地域活動	第27週	地域活動		
	第13週	地域活動	第28週	事後指導 1年間の活動を振り返る		
	第14週	地域活動	第29週	事後指導 1年間の活動を振り返る		
	第15週	前期のまとめ	第30週	記録提出		
指導方法 履修上の 注 意	<p>* 卒業要件となっている。活動の事前・事後指導、および活動は毎週水曜日に行う。水曜日は必ず全日空けておくこと。必要書類は事前指導で配布する。</p> <p>* 居住地域を中心に、活動場所および活動日時の依頼を含め、学生本人が行う。活動先によってはオリエンテーションが実施される。事前に活動計画および必要書類を提出しなくてはならない。綿密な活動計画を立てることがのぞましい。詳細は授業内で説明する。</p>					
成績評価の方法	<p>レポート（80％） 授業態度（20％）</p> <p>授業態度には活動先での態度も含まれる。</p>					
教科書						
参考文献						

授業科目	保 育 原 理	単位数	2	担当教員	土 屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育原理 での学びを踏まえ、保育者に求められる役割や保育・子どもを取り巻く現状と課題について学んでいく。さらに、グループで保育者論について調べてみるなどの作業では、実践にふれて調べてみる・考えてみるという実践と理論を結びつけていくことにも取り組んでほしいと考えている。講義を通して、保育や子どもを取り巻く社会状況や保育実践への理解を深めることをねらいとする。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	保育者に求められるもの 子どもの願いから			
	第3週	保育者に求められるもの 親の願いから			
	第4週	保育者に求められるもの ともに働く者の願いから			
	第5週	保育者に求められるもの、まとめ			
	第6週	保育・子どもを取り巻く現状と課題 子どもと保護者を取り巻く課題			
	第7週	保育・子どもを取り巻く現状と課題 保育施策の現状			
	第8週	保育・子どもを取り巻く現状と課題 保育の展望			
	第9週	保育・子どもを取り巻く現状と課題、まとめ			
	第10週	グループワーク「保育に関する書籍から、様々な人の保育者論を集め、共通点や著者固有の主張を学ぶ」			
	第11週	グループワーク			
	第12週	グループワーク			
	第13週	グループワーク			
	第14週	グループワーク 発表			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、深めてほしい。				
成績評価の方法	課題・提出物（70%）、発表（30%）				
教科書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針』				
参考文献	参考文献は、授業において紹介する。				

授業科目	保育の心理学	単位数	1	担当教員	伊藤明芳
講義のねらいと概要	<p>本講義では、発達心理学の講義内容を踏まえて、発達心理学の基礎的知識の拡充と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。</p> <p>保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長等にもアプローチしたいと考えている。</p>				
授業計画	第1週	イントロダクション			
	第2週	発達を理解するための基礎 [発達理論の復習と応用]			
	第3週	発達を理解するための基礎 [理論の活用を考える]			
	第4週	知的側面の発達			
	第5週	情緒的発達			
	第6週	社会的発達			
	第7週	子どもの心の問題 [概要]			
	第8週	子どもの心の問題 [理解と対応]			
	第9週	発達障害 [発達障害の復習と応用]			
	第10週	発達障害 [発達障害へのアプローチ]			
	第11週	子どもへの関わりと保育方法の工夫			
	第12週	家庭、保護者との連携			
	第13週	保育者自身の心の健康			
	第14週	まとめ			
	第15週	今後へのアドバイスと試験			
指導方法 履修上の 注意	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。</p> <p>その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、それを保育の実践に活かすことを考える。</p> <p>受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(60%)、レポート(40%)				
教科書	特に指定しない				
参考文献	講義の際に随時紹介				

授業科目	子どもの保健	単位数	1	担当教員	駒松仁子
講義のねらいと概要	<p>子どもの健康および安全にかかわる保健活動の計画および評価について学ぶ。さらに養護・教育の一体性にもとづいた、健康の維持増進および心身の発育・発達を促す保健活動について学ぶ。また疾病とその予防および適切な対応、救急時の対応、事故防止について具体的に学ぶとともに、心の健康と環境との関連や地域保健活動等との連携について理解する。</p>				
授業計画	第1週	子どもの保健における養護と教育			
	第2週	保健活動の計画と評価			
	第3週	子どもの生活習慣と心身の健康			
	第4週	子どもの発達援助と保健活動(1)			
	第5週	子どもの発達援助と保健活動(2)			
	第6週	子どもの発達援助と保健活動(3)			
	第7週	子どもの健康状態の観察			
	第8週	体調不良の子どものケア(1)			
	第9週	体調不良の子どものケア(2)			
	第10週	体調不良の子どものケア(3)			
	第11週	特別な配慮必要とする子どもの理解(1)			
	第12週	特別な配慮必要とする子どもの理解(2)			
	第13週	特別な配慮必要とする子どもの理解(3)			
	第14週	事故防止と応急処置			
	第15週	試験			
指導方法 履修上の 注意	<p>講義およびビデオやモデル人形を使用して演習を実施し、基礎的な知識と技術が習得できるように指導する。講義で配布した資料は、毎回の授業に必ず持参すること。</p>				
成績評価の 方法	<p>筆記試験(40%)、課題(20%)、実技(20%)、授業態度(20%)</p>				
教科書	<p>指定なし。授業の都度、資料を配布する。</p>				
参考文献	<p>授業の都度、参考文献を提示する。</p>				

授業科目	子どもの食と栄養		単位数	2	担当教員	橋本洋子
講義のねらいと概要	<p>私たちは「食べる」ことからだに必要な栄養を摂取し、また適切な食生活によって健康を維持している。乳・幼児期の食生活は心身の発育・発達に大きく影響し、幼児期に身についた食生活はその子どもの一生の食習慣を左右する大切なものである。</p> <p>生まれたばかりの乳児は「食べる」手段として母乳を「吸う」ことから始め、離乳期を経て「噛む」ことを覚える。ただ「食べる」だけではなく、美味しく味わう、よく噛む、といった食生活の大切さをはじめ、保育者として、子どもの心身の発達段階にふさわしい栄養と食生活への正しい知識と食育のあり方を学ぶことを目的とする。</p>					
授業計画	第1週	子どもの健康と食生活の意義 健康・栄養とは	第16週	児童福祉施設における食事と栄養		
	第2週	子どもを取り巻く食環境 子どもの心身の健康と食生活	第17週	配慮が必要な子どもの食と栄養 疾病・体調不良・食物アレルギーなど		
	第3週	子どもを取り巻く食環境 子どもの食生活の現状と課題、食品の安全性	第18週	配慮が必要な子どもの食と栄養 障がいのある子どもへの対応		
	第4週	からだと栄養 からだのはたらきと栄養の基礎知識	第19週	子どもを取り巻く食環境 子どもに必要な食環境を考える		
	第5週	からだと栄養 食べ物のゆくえ ~消化・吸収のいとなみ~	第20週	食育 食育の基本と内容、食育基本法		
	第6週	からだと栄養 食事摂取基準と献立作成・調理の基本	第21週	食育 食育の内容と計画・評価について		
	第7週	子どもの発育・発達と食生活 乳児期の栄養と排泄	第22週	食育 保育士にできる食育を考える 食育のための環境、保護者への支援等		
	第8週	子どもの発育・発達と食生活 哺乳動作の発達(ビデオ)	第23週	食育 食育計画を立てよう		
	第9週	子どもの発育・発達と食生活 乳汁栄養(母乳、人工栄養)	第24週	試験・まとめ		
	第10週	子どもの発育・発達と食生活 離乳の意義と進め方	第25週	食育演習 食育媒体とは、食育計画と媒体制作		
	第11週	子どもの発育・発達と食生活 摂食機能の発達	第26週	食育演習 媒体製作		
	第12週	子どもの発育・発達と食生活 幼児期の特徴と食生活	第27週	食育演習 媒体制作		
	第13週	子どもの発育・発達と食生活 学童期の特徴と食生活	第28週	食育媒体発表		
	第14週	子どもの発育・発達と食生活 食品の選び方、栄養価計算	第29週	食育媒体発表		
	第15週	試験・まとめ	第30週	まとめ		
指導方法 履修上の 注意	<p>テキストを中心にビデオ・配布資料等の教材を使用した講義が中心となるが、献立作成、食育媒体製作なども含む演習科目である。子どもだけでなく自分自身の食生活・健康も考え、また、保育士として求められている食育に積極的に取り組み、課題作成・発表を楽しみ、食指導のあり方を考えて欲しい。</p>					
成績評価の 方法	筆記試験(70%) 課題・発表(20%) 授業態度(10%)					
教科書	『子どもの食と栄養 - 演習 - 』(岡崎光子編、同文書院) 必要に応じて資料を配布					
参考文献						

授業科目	子どものための食育実習	単位数	1	担当教員	橋本 洋子
講義のねらいと概要	<p>生まれたばかりの乳児は母乳を「吸う」ことから始まり、離乳期を経て幼児期には「ひとり食べ」ができるようになり、この短期間に目覚ましい摂食機能の発達を遂げる。</p> <p>この食育実習では、1年次の「子どもの食と栄養」で学んだ知識をもとに、子どもの発達過程に応じた食事を、実際に調理し、子どもの立場で試食することで理解を深める。ただ「空腹を満たす食事」ではなく、子どもの咀嚼機能に合っているか、発達に応じた食事量や調理方法を学び、「おいしく」かつ「楽しい」食事を与えられるよう、自分なりの視点をもって取組んで欲しい。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション：調理室の使い方、調理の基本			
	第2週	調乳および離乳食（準備期）			
	第3週	離乳食（初期・中期）			
	第4週	離乳食（後期）			
	第5週	離乳食（完了期）			
	第6週	幼児の食事（1～2才、3～5才）			
	第7週	幼児のおべんとう			
	第8週	幼児のおべんとう			
	第9週	幼児の間食			
	第10週	幼児の間食：食物アレルギーを考える			
	第11週	行事食			
	第12週	食育を考える			
	第13週	まとめ、レポート提出（第13週で終了）			
	第14週				
	第15週				
指導方法 履修上の 注意	<p>毎回2時限連続で行う。デモンストレーション・説明の後、4～5人のグループに分かれて実習する。必要に応じてビデオなどの教材も使用。毎実習後に各自でレポートを作成し、子どもの食事のあり方について考察する。レポートは最後にまとめて提出する。</p> <p>グループ毎の実習なので欠席は他の学生に迷惑をかけることになる。また、デモンストレーション中の私語は円滑な実習のために禁止する。エプロン、三角巾を着用すること。</p>				
成績評価の方法	<p>レポート・課題（70%）、授業態度（30%）</p> <p>授業態度には、実習にふさわしい服装をはじめとした取り組む姿勢を考慮する。</p>				
教科書	実習に必要な資料は毎回配布する。				
参考文献					

授業科目	社会的養護	単位数	2	担当教員	松田鉄蔵
講義のねらいと概要	<p>複雑化する現代社会では、「過程・家族での養育」と、「社会全体での養育」という2極での視点、即ち過程と福祉施設での養護はますます連携が必要であり、施設職員としての基本的な姿勢と、子どもとの人間的なふれあいの大切さをより理解できるように、具体的な事例・映像を紹介しながら授業をおこなう。</p> <p>児童福祉施設（障害関係施設は、障害児施設から成人施設までを含む）の、法律上の背景、設立までの歴史的経緯、基本的な諸問題を通して、子どもの社会的養護とは何か、施設養護の具体的な種別、施設養護に共通する基本理念、施設種別毎の基本理念とは何か、施設と地域との関係等について学ぶ。</p>				
授業計画	第1週	児童福祉と養護 - 児童福祉の理念と児童養護			
	第2週	児童福祉と養護 - 家庭の機能と家庭養護			
	第3週	児童福祉と養護 - 家庭養育の思潮と児童の人格形成			
	第4週	家庭・地域の子育てと福祉施設	家族・家庭の変容		
	第5週	家庭・地域の子育てと福祉施設	地域社会の変容		
	第6週	家庭・地域の子育てと福祉施設	子育て問題の今日の特徴的		
	第7週	家庭・地域の子育てと福祉施設	最近の子育て支援策		
	第8週	家庭・地域の子育てと福祉施設	まちづくりと福祉施設の連携		
	第9週	施設養護の基本原則 - 一般的基本原則 1			
	第10週	施設養護の基本原則 - 一般的基本原則 2			
	第11週	施設養護の基本原則 - 方法論的基本原則 1			
	第12週	施設養護の基本原則 - 方法論的基本原則 2			
	第13週	福祉施設の歴史と変遷(先駆者の心にふれる)			
	第14週	障害者自立支援法から、これからの障害児・者施設像の概略の理解			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>授業の前半は、広い視野から施設養護を考えるために、現在の家族・家庭の現状(2010の世論調査を可能な限り参考にして現状を考える)や、施設内の生活の理解のために映像を活用する。授業はパワーポイントを使用して行う。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(80%)、授業態度(20%)				
教科書	授業でプリント配布				
参考文献	『新しい養護原理』(加藤孝正、ミネルヴァ書房)				

授業科目	相 談 援 助	単位数	1	担当教員	松 田 鉄 蔵
講義のねらいと概要	<p>保育現場や福祉施設での本人、保護者からの相談事は多く、内容也多岐にわたってきている。指導は信頼の上に広がることを考えると、相談事に誠意をもってあたるためにも、援助の基本的な技法を理論的に習得して、次に実際の多くの事例への対応をグループで討議する中で、援助技術を習得していく。保育、福祉現場での利用者、保護者からの相談に応じられる基礎的理論と、対応技法を学びとって欲しい。</p>				
授業計画	第1週	保育現場の動向から。相談援助の意義について学ぶ			
	第2週	相談援助の機関の概要と対象者の理解			
	第3週	援助的コミュニケーション コミュニケーション技法を学ぶ			
	第4週	援助的コミュニケーション 面接の技法について			
	第5週	記録の取り方・活かし方 記録の意義と目的を学ぶ			
	第6週	記録の取り方・活かし方 記録における留意点、様式について			
	第7週	集団援助技術の基礎知識 グループの種類と援助行動について			
	第8週	地域援助技術の方法モデルについて			
	第9週	ケースマネジメントの実際 問題をとらえる視点について			
	第10週	ケースマネジメントの実際 援助者の役割について			
	第11週	保育所における援助 事例の概要			
	第12週	保育所における援助 援助経過			
	第13週	児童福祉施設における援助 事例の概要			
	第14週	児童福祉施設における援助 援助経過			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>講義での理解の上に、2人や集団での援助技術の実際に取り組み（ロールプレイ）や結果のレポートに積極的に参加するように、試験と同様に授業中の態度、参加度を重視する。</p>				
成績評価の方法	<p>試験（50％）、授業態度（40％）、討議への参加（10％）</p>				
教科書	<p>授業でプリント配布</p>				
参考文献	<p>『社会福祉援助技術』（春見静子、光生館）</p>				

授業科目	保育内容総論	単位数	1	担当教員	福田 武比古
講義のねらいと概要	<p>「保育所保育指針」は、昭和40年8月に策定・施行されたもので、保育所の保育内容や保育方法等についての基本的理念・留意事項等を示したガイドラインである。（「保育所保育指針」は平成20年3月に再改定され、厚生労働大臣告示となり、21年4月より施行）「幼稚園教育要領」は、昭和31年に策定、39年3月に文部大臣（当時）告示として改定・施行されている。（「幼稚園教育要領」も平成20年3月に再改定・告示され、21年4月より施行）</p> <p>本授業では、「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」を中心に、保育内容全般及び保育情勢の最新の動向等について考察し理解する。</p>				
授業計画	第1週	子育ての社会的支援			
	第2週	福祉と教育の理念（児童福祉施設としての保育所・教育施設としての幼稚園）			
	第3週	我が国の保育制度と保育の歴史			
	第4週	保育所・幼稚園・認定こども園の制度と保育内容			
	第5週	保育をめぐる最近の動向			
	第6週	保育施設に期待される機能（仕事と子育ての両立支援・地域の子育て支援）			
	第7週	望ましい保育者像（保育者のためのチェックリスト）			
	第8週	保育所保育指針と幼稚園教育要領の改定			
	第9週	保育の役割、保育の原理、保育の社会的責任			
	第10週	子どもの発達（乳幼児期の発達の特性、発達過程）			
	第11週	保育の内容（保育のねらい及び内容、保育の実施上の配慮事項）			
	第12週	保育の計画及び評価（保育の計画、保育の内容等の自己評価）			
	第13週	健康及び安全（子どもの健康支援、環境及び衛生管理並びに安全管理、食育の推進、健康及び安全の実施体制）			
	第14週	保護者に対する支援（保護者に対する支援の基本、地域における子育て支援）			
	第15週	職員の資質向上（職員の資質向上に関する基本的事項、施設長の責務、職員の研修等）			
指導方法 履修上の 注意	<p>1. 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」及び参考資料に基づき講義</p> <p>2. 必要に応じて、パズセッション等の演習</p>				
成績評価の方法	レポート（60%）、授業態度（40%）				
教科書	授業時に配布するプリント				
参考文献	『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』				

授業科目	保育内容（健康）	単位数	1	担当教員	北 洞 誠 一
講義のねらいと概要	将来の子どもたちの真の自立を考えた時、保育者としてどのように考え、子どもたちに接して、働きかけたら良いのと言う課題に対して、健康面からアプローチして行きたいと思います。				
授業計画	第1週	健康の考え方			
	第2週	保育内容「健康」のねらいと内容			
	第3週	乳幼児期の発育発達（身体の発達）			
	第4週	乳幼児期の発育発達（情緒・社会性・パーソナリティの発達）			
	第5週	乳幼児期の運動の必要性			
	第6週	乳幼児期の運動の必要性			
	第7週	最近の子ども達の問題点			
	第8週	食育			
	第9週	食の問題			
	第10週	食の問題			
	第11週	実際の保育の事例			
	第12週	実際の保育の事例			
	第13週	総まとめ			
	第14週	総まとめ ・試験			
	第15週	映像学習			
指導方法履修上の注意	席は学籍番号順に座ること。授業妨害行為（私語、無駄話、雰囲気乱す事等）やコミュニケーションを故意に取らない行為に対しては、教室から退去してもらう事があります。明らかな授業放棄（他の作業に従事、長時間の睡眠や繰り返しの睡眠）に対しても退去を要請します。指示に従わない場合は、欠席扱いが試験欠格者として扱います。体調が悪く、姿勢を維持できない場合はいつでも教師に申し出ること。出欠確認後の遅刻は、授業終了後に、入室時刻と共に申し出ること。申告のない場合は欠席扱いとなります。受け身で授業に参加するのではなく、保育の専門家となるべく積極的に知識や思考法を吸収しようとする事。必要に応じてビデオを鑑賞します。				
成績評価の方法	筆記試験（レポートを含む）（80％）、授業態度等（20％）				
教科書	『保育内容「健康』』（宮下恭子編、大学図書出版）				
参考文献					

授業科目	保育内容（人間関係）	単位数	1	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>「人間関係」とは、子どもと人とのかかわりに関する「領域」の一つである。子どもがほかの人々と親しみ支えあって生活するための“人とかかわる力”の基礎は、自分が周囲の人々にあたたかく見守られているという安心感から生じる信頼感と、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる。授業の前半では、“人とかかわる力”の基礎が育まれる、家庭での親や祖父母・兄弟とのかかわりや、園生活での保育者や友達とのかかわりに目を向け、子どもの育ちにおける「人間関係」の豊かさをもつ意味について考える。後半では、保育の事例を検討し、具体的な保育者の援助について学ぶ。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション、領域「人間関係」とは			
	第2週	領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」			
	第3週	相手の世界に共感すること			
	第4週	子どもの人とかかわる力の育ち	母親とのつながり、愛着		
	第5週	依存（甘え）と自立の間を揺れ動く			
	第6週	父親とのつながり			
	第7週	友だちとのかかわり			
	第8週	園生活での子どもの育ち	事例検討	子どもの安定を支える保育者のかかわり	その1
	第9週			事例検討	子どもの安定を支える保育者のかかわり その2
	第10週			事例検討	子ども同士のかかわりを支えよう その1
	第11週			事例検討	子ども同士のかかわりを支える その2
	第12週			事例検討	クラス集団としての育ちを支える
	第13週			事例検討	保育者自身が子どもとの関係を見直す
	第14週	保育者の援助とは			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、深めてほしい。また、授業毎に考えたことを小レポートして書いてもらう予定である。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（70%）、課題（30%）				
教科書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針』、『育ちのきほん』（神田英雄、ひとなる書房）				
参考文献	参考文献は、授業において紹介する。				

授業科目	保育内容（環境）	単位数	1	担当教員	鯛谷和代
講義のねらいと概要	<p>子どもと子どもが関わる環境との関係を取り上げ、環境の持つ意味や環境が子どもの興味、思考、行動、感情等に与える影響について考える。そして、子どもの興味・関心を引き出すための環境のあり方と、発達段階や個人の特性に応じた援助の仕方について考えていく。</p> <p>まず、「保育所保育指針」および「幼稚園教育要領」における領域「環境」の意義・目的を理解した上で、子どもをとりまく環境をどのように捉え、どのように考えるかについて学ぶ。</p> <p>また、「環境」に含まれる様々な側面と子どもとの関係に関し、保育者がこれらについてどのように子どもに働きかければよいのかを、受講者からの報告も交え様々な事例を通して学ぶ。</p>				
授業計画	第1週	保育内容（環境）で学ぶこと			
	第2週	保育所保育指針と幼稚園教育要領に見る「環境」(1)			
	第3週	保育所保育指針と幼稚園教育要領に見る「環境」(2)			
	第4週	子どもの発達と環境にかかわる力(1) - 基礎編 -			
	第5週	子どもの発達と環境にかかわる力(2) - 応用編 -			
	第6週	園生活と「環境」(1) - 身近な自然や生き物とのかかわり - (1)			
	第7週	園生活と「環境」(1) - 身近な自然や生き物とのかかわり - (2)			
	第8週	園生活と「環境」(2) - 身近な「もの」とのかかわり - (1)			
	第9週	園生活と「環境」(2) - 身近な「もの」とのかかわり - (2)			
	第10週	園生活と「環境」(3) - 文字とのかかわり -			
	第11週	園生活と「環境」(4) - 数量とのかかわり -			
	第12週	園生活と「環境」(5) - 社会・情報などのかかわり -			
	第13週	領域「環境」と保育実践(1) - 事例を通して考える - (発表など)			
	第14週	領域「環境」と保育実践(2) - 事例を通して考える - (発表など)			
	第15週	まとめ 総合課題など			
指導方法履修上の注意	<p>講義および演習形式で行う。また、適宜関連するビデオ上映等も行う。授業で配布するプリントは必ず毎回持参すること。講義では板書された内容を書き写すのではなく、自分が気づいたこと考えたことをメモする習慣を身につけて欲しい。演習においては事例調査・報告などについて積極的な授業参加が必要となる。また、普段の生活を送る中で、自分自身の周囲の環境を意識し、授業との関連を考える態度が大切となる。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(40%)、レポート(40%)、発表(20%)				
教科書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針 原本 平成20年告示』(チャイルド本社)				
参考文献					

授業科目	保育内容（言葉）	単位数	1	担当教員	高原典子
講義のねらいと概要	<p>言葉は、子どもが人間らしく生きる力を育て、表現するうえで大切なものです。</p> <p>本科目では、乳幼児の言葉の発達について学ぶと共に、子どもの豊かな言葉を育むために保育者として必要な言葉の遣い方を学びます。保育者としてのより良いコミュニケーションは、子どもと接する時だけでなく、保護者への対応や職場での人間関係も円滑にします。</p> <p>さらに本科目では、子どもの言葉や想像力、創造性を豊かにするための保育文化財（素話・わらべうた）についても演習を積みます。特に言葉を用いる保育文化財「素話」については一人ひとりが発表を行い、保育実技の習得を目指します。</p>				
授業計画	第1週	<人間にとっての言葉について> 言葉の意義とはたらきについて学ぶ。(教科書 P1~11)			
	第2週	<言葉を豊かにする保育文化財 > 素話についての理論を学び、演習を行う。			
	第3週	<多様な言葉について> 「まばたきの詩人・水野源三」のドキュメンタリービデオを観て、言葉の表現の多様さと大切さについて学ぶ。(教科書 P3~4)			
	第4週	<言葉を豊かにする保育文化財 > 乳児の言葉を育むわらべうたの特性について学び、演習を行う。			
	第5週	<乳幼児の言葉の発達 > 満1歳頃までの乳児の言葉の発達について学ぶ。(教科書 P42~44)			
	第6週	<乳幼児の言葉の発達 > 1~2歳頃の乳児の言葉の発達について学ぶ。(教科書 P44~46)			
	第7週	<乳幼児の言葉の発達 > 3~4歳の幼児の言葉の発達について学ぶ。(教科書 P46~50)			
	第8週	<乳幼児の言葉の発達 > 5~6歳頃の幼児の言葉の発達について学ぶ。(教科書 P50~55)			
	第9週	乳幼児の言葉の発達 - の復習テストとまとめ			
	第10週	<保育者としてのかかわり方を学ぶ> DVD「せんせいにもきかせて」を観て、保育者の言葉について考える。			
	第11週	<より良いコミュニケーションをめざして > 保育者の言葉を育む (教科書 P130~134)			
	第12週	<より良いコミュニケーションをめざして > 保育者の言葉を育む (教科書 P134~138)			
	第13週	<言葉に関する問題について> 子どもの言葉の障とくへのかかわり方を学ぶ。(教科書 P139~143)			
	第14週	<言葉を豊かにする保育文化財演習> 「素話」のまとめ			
	第15週	テストと総まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>本科目では、第5週目以降、素話を語る個人発表に取り組みますので、各自テキストをよく覚え練習して臨んで下さい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(40%)、実技(40%)、レポート(20%)				
教科書	『言葉』(関口準著、大学図書出版)				
参考文献	<p>DVD『映像で見る0.1.2歳児のふれあいうた、あそびうた』(汐見稔幸監修、エイデル研究所)</p> <p>『おはなしのろうそく』(東京子ども図書館)『小さなおはなし集』(大竹麗子作 おはなしかご)</p>				

授業科目	保育内容（音楽表現）	単位数	1	担当教員	大輪公吉
講義のねらいと概要	主にソルフェージュ（音感訓練）をベースに、教師として身につけていなければならないメテ工（技術）、知識、また指導理念の基礎を学びます。				
授業計画	第1週	記譜法			
	第2週	階名唱法			
	第3週	聴覚訓練（歌唱）			
	第4週	”（ディクテーション）			
	第5週	”（リズム）			
	第6週	合奏・指揮法・各種楽器の指導法			
	第7週	音楽の形式・構造理解（楽曲形式）			
	第8週	”（各種音階）			
	第9週	創作（リズム）			
	第10週	”（旋律）			
	第11週	”（編曲）			
	第12週	”（楽曲創作）			
	第13週	”（伴奏）			
	第14週	”（即興）			
	第15週	まとめ（創作発表）			
指導方法履修上の注意	毎回必ず五線ノートを用意のこと。				
成績評価の方法	筆記試験（40%）、レポート（30%）、授業態度（30%）				
教科書	『「幼児の音楽教育」-音楽的表現の指導-』（音楽教育研究協会）				
参考文献	『改訂・楽器奏法の基礎指導』（大山美和子編、音楽教育研究会）				

授業科目	保育内容（造形表現）	単位数	1	担当教員	市瀬 恭子
講義のねらいと概要	<p>幼児の表現としての造形は、生活や遊びの中に多くのきっかけがある。それらは見たり、聞いたりして心を動かす感動となり、生きる喜びを生み出す原動力となる。</p> <p>その原動力を支えるのは、保育者の的確な幼児理解と援助である。幼児の豊かな表現は、保育者自らの豊かな感性から生まれる。</p> <p>幼児の遊びをイメージしながら、創りだしていく喜びや、楽しさを保育者自らが感じ、五感を働かせて創造性を豊かにすることを目標とする。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	「幼児の豊かな表現に向けて」	講義		
	第3週	材料を生かした遊びと工夫	描く		
	第4週	材料を生かした遊びと工夫	貼る		
	第5週	材料を生かした遊びと工夫	写す		
	第6週	それぞれの技法を組み合わせた制作			
	第7週	立体造形	紙工作		
	第8週	立体造形	身近な材料から 1		
	第9週	立体造形	身近な材料から 2		
	第10週	身近な自然とのかかわりを通して	自然物の工作 1		
	第11週	身近な自然とのかかわりを通して	自然物の工作 2		
	第12週	身近な自然とのかかわりを通して	コラージュ		
	第13週	身近な自然とのかかわりを通して	材料を組み合わせる		
	第14週	ワークショップ実践例			
	第15週	ワークショップ実践例			
指導方法 履修上の 注意	<p>制作を中心に進めていく</p> <p>自分の課題に応じて、使用する材料、用具を準備する。</p> <p>制作に要する材料費は本人負担とする。（300円程度）</p> <p>授業態度と作品に取り組む姿勢を重視する。</p>				
成績評価の方法	レポート（30％）、作品（30％）、発表（10％）、授業態度（30％）				
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）				
参考文献	『幼稚園教育要領 保育指針』（チャイルド社）				

授業科目	音 楽 (ピ ア ノ)		単位数	2	担当教員	大輪公彦 他
講義のねらいと概要	この授業では、幼児教育または保育の現場で必要となる基本的なピアノの演奏技術と表現力を習得します。					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	曲目番号 15～17		
	第2週	曲目番号 1	第17週	" 18～20(童謡テキスト併用)		
	第3週	" 2	第18週	" 21～23		
	第4週	" 3	第19週	" 24～26		
	第5週	" 4	第20週	" 27～29		
	第6週	" 5	第21週	" 30～32		
	第7週	" 6	第22週	" 33～35		
	第8週	" 7	第23週	" 36～38		
	第9週	" 8	第24週	" 39～41		
	第10週	" 9	第25週	" 42～44		
	第11週	" 10	第26週	" 45～48		
	第12週	" 11	第27週	追加曲 1		
	第13週	" 12	第28週	追加曲 2, 3		
	第14週	" 13	第29週	追加曲 4, 5		
	第15週	" 14	第30週	テスト		
指導方法 履修上の 注意	個人レッスンが原則である。与えられた課題を次のレッスンまでに十分練習しておくこと。学生の進度に応じて後期は童謡曲集を併用する。1年間で終了不可な学生は2年次に残りを続けて履修する。					
成績評価の方法	学年末実技試験(50%)、日常レッスンにおける取り組み(50%)					
教科書	『幼稚園教諭・保育士を目指す人のための新しいピアノ教則本』(田口・高崎・大輪編、カワイ出版)、『実用こどものうた』(田口・高崎編、カワイ出版)					
参考文献	授業内で指示					

授業科目	音楽（ピアノ）		単位数	2	担当教員	大輪公彦 他
講義のねらいと概要	音楽（ピアノ）で習得したピアノの基本奏法の上に、更に高度な演奏技術と応用力を身につけます。授業では、童謡をはじめ保育の現場で役に立つレパートリーを学びます。また、コードネームの学習を通して歌や合奏のピアノ伴奏が余裕を持ってできるよう、『実用こどものうた』をベースに授業を進めていきます。					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	『実用こどものうた』p42～71		
	第2週	『実用こどものうた』p8～39	第17週	〃		
	第3週	〃	第18週	〃		
	第4週	〃	第19週	〃		
	第5週	〃	第20週	〃		
	第6週	〃	第21週	〃		
	第7週	〃	第22週	〃		
	第8週	〃	第23週	〃		
	第9週	〃	第24週	〃		
	第10週	〃	第25週	〃		
	第11週	〃	第26週	〃		
	第12週	〃	第27週	〃		
	第13週	〃	第28週	〃		
	第14週	〃	第29週	〃		
	第15週	テスト	第30週	テスト		
指導方法履修上の注意	電子キーボードでの演習が中心となるため、毎日の練習の積み重ねが上達のポイントとなります。コードネーム等に関する参考文献は、その場に応じてサブテキストとしてコピーを配布します。					
成績評価の方法	学期末と学年末の実技試験（50％）、日常の授業における演奏（30％） 進捗及び学習曲数（20％）					
教科書	『実用こどものうた』（田口・高崎編、カワイ出版）					
参考文献	授業内で指示					

授業科目	図 画 工 作		単位数	2	担当教員	稲 葉 恭 子
講義のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の造形活動を、楽しく生き生きと意欲的に展開させるために必要な図画工作の知識や技術の基礎技能を学びます。 ・子ども達の心や身体の発達にあわせた絵画・工作遊びを通し、子ども達の豊かな感性を育む道筋を学びます。 ・制作活動では結果にこだわらずどのような活動にも主体的に取り組み、制作過程を大切にしながら自分らしい表現作品を作り上げる積極的な取り組み方を学びます。 ・心豊かに芸術を楽しみ、質の高い保育者として成長することをめざします。 (授業の内容については、制作進度状況により変更する場合があります。) 					
授業計画	第1週	授業の輪郭 取り組み方・テキストの使用法		第16週	手作りおもちゃ パックボール制作	
	第2週	絵画の用具と描画材について		第17週	手作りおもちゃ 日用品で制作	
	第3週	描画のための基礎能力	点を描く	第18週	手作りおもちゃ リサイクル品で制作	
	第4週	描画のための基礎能力	線を描く	第19週	手作りおもちゃ オリジナルに挑戦	
	第5週	描画のための基礎能力	形をとらえる	第20週	ポップアートカード 仕組みを理解する	
	第6週	描画のための基礎能力	色をつける	第21週	ポップアートカード デザインし制作	
	第7週	描画のための基礎能力	観察して描く	第22週	ポップアートカード 制作	
	第8週	音のスケッチ		第23週	紙アート 紙袋で立体を作る	
	第9週	染める・マーブリング		第24週	紙アート 紙袋で立体を作る	
	第10週	切る・切り紙		第25週	スタンプング スチロール材スタンプ作成	
	第11週	貼る・デコパージュ		第26週	スタンプング 作品制作	
	第12週	粘土	粘土のバリエーション	第27週	墨で表現 日本の伝統芸術にふれる	
	第13週	粘土	基礎を作る	第28週	墨で表現 作品制作	
	第14週	粘土	造形する	第29週	実践に向けて 図画工作指導案を作成し発表	
	第15週	粘土	着色 仕上げ	第30週	まとめ	
指導方法 履修上の 注意	<p>実技演習なので、指定された材料や道具類は各自責任をもって授業開始前に準備する。制作進度には個人差が出てくるが、最後まで根気よく完成を目指して制作する。提出物については、提出期日を守る。遅刻や欠席の無いよう、体調管理をする。制作に関する用具や材料費は、個人負担(年間5,000円前後)</p>					
成績評価の方法	<p>フィードバックレポート(20%) 作品(65%) 授業態度(15%)</p>					
教科書	『楽しい造形表現』(子どもの造形表現研究会 圭文社)					
参考文献	必要に応じて案内します。					

授業科目	体育（幼児体育を含む）		単位数	2	担当教員	新 戸 信 之
講義のねらいと概要	<p>本講の最大の目的は、子どもが身体活動を好きになり得る指導法を習得することである。 身体的な遊びに随伴する「楽しさ」や「嬉しさ」あるいは「満足感」といったような、前向きな情動を動機付けとして、自発的な身体活動を促す方法を学ぶ。 また、いわゆる「人間力」を養う手段としての遊びのありかたを検証することを副次的な目的とする。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション 幼児体育の必要性と、運動への動機付け	第16週	社会性を養う遊び		
	第2週	ふれあい遊び	第17週	思考性、思いやりを養う遊び		
	第3週	ふれあい遊び	第18週	協調性を養う遊び		
	第4週	運動遊び	第19週	運動遊びへの導入と準備体操		
	第5週	運動遊び	第20週	指導法と指導案の作成について		
	第6週	運動遊び	第21週	指導案の作成と指導準備、リハーサル		
	第7週	運動遊び	第22週	ロールプレイによる指導の実践 ：グループ		
	第8週	運動遊び	第23週	ロールプレイによる指導の実践 ：グループ		
	第9週	鉄棒・マット・縄跳びの指導方法	第24週	ロールプレイによる指導の実践 ：グループ		
	第10週	伝承遊び	第25週	ロールプレイによる指導の実践 ：グループ		
	第11週	伝承遊び	第26週	ロールプレイによる指導の実践 ：グループ		
	第12週	リズム遊び	第27週	ロールプレイによる指導の実践 ：グループ		
	第13週	リズム遊び	第28週	ロールプレイによる指導の実践 ：グループ		
	第14週	歌と遊び・遊び歌・手遊び	第29週	リズム体操の創作		
	第15週	歌と遊び・遊び歌・手遊び	第30週	リズム体操の発表		
指導方法 履修上の 注 意	<p>服装・シューズについては、第一回目の授業にて説明を行う。 体育館への携帯電話の持ち込みは禁止。</p>					
成績評価の 方 法	発表（30％）、授業態度（70％）					
教科書						
参考文献	『幼児体育 理論と実践(初級)』（日本幼児体育学会 編集、大学教育出版）、『幼児体育 理論と実践(中級)』（日本幼児体育学会 編集、大学教育出版）					

授業科目	乳 児 保 育		単位数	2	担当教員	伊 能 恵 子
講義のねらいと概要	<p>乳幼児期における、発達の姿を心・体・生活等といった細かい項目に分けて明確に捉えることを目標とする。 また、これらを受けて保育現場における援助方法の概要を具体的に提供することにより、乳児期の大切さと重要性の実感を高めることをねらいとする。</p> <p>さらに、保育所保育指針を土台とした「養護」と「教育」についての考察などを通して、保育士としての資質向上が求められている現在、保育士資質とは何か等、学生個々人が目標に照らし合わせて、次の学びの一步として活用できるよう、理論と実践とをむすびつけた講義の展開に焦点をあてたい。</p>					
授業計画	第1週	生涯発達という捉え方	第16週	発達の流れ		
	第2週	乳幼児期（1）	第17週	人とのかわりの発達と保育援助		
	第3週	乳幼児期（2）	第18週	保育所保育指針と保育援助		
	第4週	乳幼児期（3）	第19週	「養護」とは（1）		
	第5週	乳幼児期（4）	第20週	「養護」とは（2）		
	第6週	発達の姿	第21週	「教育」とは		
	第7週	すいみんの発達と保育援助	第22週	乳児期の母子相互作用		
	第8週	視覚の発達と保育援助	第23週	乳児期の重要性（1）		
	第9週	聴覚の発達と保育援助	第24週	乳児期の重要性（2）		
	第10週	知覚の発達と保育援助	第25週	乳児期の保育援助（1）		
	第11週	情緒の発達と保育援助	第26週	乳児期の保育援助（2）		
	第12週	言葉の発達と保育援助（1）	第27週	乳児期の親子だて		
	第13週	言葉の発達と保育援助（2）	第28週	保育者としての資質（1）		
	第14週	認知の発達と保育援助	第29週	保育者としての資質（2）		
	第15週	まとめ（1）	第30週	まとめ（2）		
指導方法 履修上の 注意	<p>毎回の授業をふまえた課題提出を課することにより、必ず理解した後に次の授業へ臨んでいただくよう添削指導を行う。その際課題を点数化していき評価へつなげるので、必然的に出席を要する。なお、遅刻・私語については、当然のマナーとして厳禁であると心得ている。</p>					
成績評価の方法	筆記試験（50%） 課題（50%）					
教科書						
参考文献	<p>『新・保育士養成講座 発達心理学』（保育士養成講座編集委員会/編、全国社会福祉協議会）、『実習育児学』（吉岡毅・千羽喜代子・長谷川浩道、日本小児医事出版社）、『保育と保健』（日本保育保健協議会）、『幼児教育と脳』（澤口俊之、文芸春秋）保育所保育指針、『ナラティブとしての保育学』（磯部裕子・山内紀幸、明文書林）、その他</p>					

授業科目	障 害 児 保 育		単位数	2	担当教員	松 田 鉄 蔵
講義のねらいと概要	<p>障害の有無にかかわらず、どの子ども地域の中で生活し、発達する権利を有していて、社会はそれを実現していかなければならない。WHOの障害の概念の理解の上に、日本での障害児・者の福祉・教育制度・施策の全体像を通して、障害児保育の取り組み経過、早期発見・早期療育・療育技法等を通して、発達障害の全体像を理解し、保育現場での具体的な対応、手順を学ぶ。障害者自立支援法や障害者権利条約からまた今後の福祉の方向とについても考える。</p>					
授業計画	第1週	WHO ICF 2001年版を通して障害の概念を理解	第16週	インクルージョンの実例を通して概念の理解		
	第2週	日本での障害の概念、手帳制度の理解	第17週	発達障害の概要について		
	第3週	障害種別に応じた福祉施設の概要の理解	第18週	発達障害 - AD / HDの概要と対応について		
	第4週	学校教育での障害児への受入経過の理解	第19週	発達障害 - LDの概要と対応について		
	第5週	特別支援学校・特別支援学級の概略	第20週	発達障害 - アスペルガー症候群の概要と対応について		
	第6週	日本における障害児への保育の歴史	第21週	発達障害への対応事例から学ぶ		
	第7週	障害児の保育への対応の法的概要の理解	第22週	自閉症児への対応 - 自閉症の理解		
	第8週	障害児の保育への対応の実際的概要の理解	第23週	自閉症児への対応 - 療育体制と療育技法		
	第9週	乳幼児健診での早期発見、早期対応を理解する - 大津方式	第24週	自閉症児への対応 - 実際の対応に関して		
	第10週	乳幼児健診での早期発見、早期対応を理解する - 北九州方式	第25週	障害児の保育所での対応 - 事例を通して学ぶ1		
	第11週	障害児幼児通園施設(含デイサービス)の概要	第26週	障害児の保育所での対応 - 事例を通して学ぶ2		
	第12週	「たったひとつのたからもの」から家族の心にふれる	第27週	障害児の保育所での対応 - 事例を通して学ぶ3		
	第13週	ダウン症候群の概要と、特性を	第28週	障害者自立支援法の概要を理解する		
	第14週	ダウン症候群 - ポーテージから、早期療育を考える	第29週	新法・障害者権利条約から障害児保育を考える		
	第15週	ノーマライゼーションの概念を理解	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>授業はパワーポイントを使用して行う。障害児・者、福祉施設、療育技法の理解のため映像を多く活用する。発達障害、自閉症の状態像と対応については、映像と、説明を一体化して行う</p>					
成績評価の方法	筆記試験(70%)、レポート(10%)、授業態度(20%)					
教科書	授業でプリント配布					
参考文献						

授業科目	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	佐藤 千代子
講義のねらいと概要	<p>子どもは家庭で育てられるのが一般的であるが、家庭環境などの理由や、心身に何らかの障害があり専門的なケアを必要とする場合、家庭での生活が困難なことがある。このような場合、家庭に代って子どもを養育するしくみが児童福祉施設などで行われる社会的養護である。</p> <p>社会的養護の役割は、子どもの安らかで健全な生活を確保し、心身の成長や発達を促すこと、また、虐待など不適切な養育により心身に傷を抱えた子どものケアを行い、その子どもの社会的な自立までの支援であるといわれている。さまざまな事例を通して、施設における自立支援に向けた処遇の内容について理解を深め、実質的な支援のあり方を学ぶことを目標とする。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス 社会的養護の場としての児童養護の体系と児童福祉施設の概要			
	第2週	社会的養護の決定の仕組み－児童相談所の役割			
	第3週	児童養護施設における育ちと自立支援			
	第4週	児童養護施設における心理的ケア			
	第5週	乳児院における育ちと自立支援			
	第6週	母子生活支援施設における育ちと自立支援			
	第7週	児童自立支援施設における育ちと自立支援			
	第8週	情緒障害児短期治療施設における育ちと自立支援			
	第9週	知的障害児施設における育ちと自立支援			
	第10週	重症心身障害児施設における育ちと自立支援			
	第11週	里親制度の特徴および実際			
	第12週	虐待を受けた子どもへの支援			
	第13週	家族への支援と家族再統合への取り組み			
	第14週	児童福祉施設における子どもの権利擁護			
	第15週	児童福祉施設における援助者の資質と倫理			
指導方法 履修上の 注意	<p>配布したプリント、資料・DVD等を使ってわかり易い講義を行う。内容により、グループ討議を行う。わからない点があれば、どしどし質問すること。</p> <p>プリントは、ファイルにきちんと保管すること。</p> <p>複数回、復習を兼ねたミニレポートの提出をもとめる。</p> <p>授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。</p>				
成績評価の方法	レポート(50%)、発表(20%)、授業態度(30%)				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	必要に応じて紹介する				

授業科目	保育所実習	単位数	2	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所実習は、保育所実習のうち前期実習にあたり、実習の段階としては「見学・観察実習」となる。(後期実習は、保育所実習として実施)</p> <p>実習の特徴は、保育が具体的に展開される場に身をおき、子どもたちや保育者と生活を共にし、自らの直接体験を通して学ぶところにある。実習を通して実習生自身が、保育についての講義や演習での学びを実践の場において統合し、保育者としての倫理観・子ども観を身につけることをねらいとする。</p>				
授業計画	<p>前期保育所実習は、原則として第2学年の2月に実施する(2週間)</p> <p>見学・観察実習の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 				
指導方法 履修上の 注意	<p>実習に参加する学生は、心身ともに健康であり、学内における教科の履修状況・出席・学習態度が良好でなければならないことはいうまでもないが、常に自分自身を見つめ直し、保育者になるための努力を続けることが求められる。</p>				
成績評価の 方法	<p>実習施設による実習評価(50%) 実習日誌(30%) 実習課題(20%)</p>				
教科書	<p>『実習の手引き』(実習委員会)、『教育・保育・施設実習の手引き』(松本峰雄編著、建帛社) 『保育所保育指針』</p>				
参考文献	<p>保育所実習研究の授業で使用する教科書及び参考文献を参照すること。</p>				

授業科目	施設実習	単位数	2	担当教員	近 喰 晴 子
講義のねらいと概要	<p>施設実習 は、保育所以外の児童福祉施設と知的障がい者施設で行われる実習を指します。本学の主な実習施設として、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、知的障がい者支援施設などがあります。原則として、11日間施設に宿泊し利用者と生活をともにしながら実習を行います。</p>				
授業計画	<p>実習施設の一日の生活の流れを知る。</p> <p>保育者の一日の職務を知る。</p> <p>利用者の一日の過ごし方や活動内容を学ぶ。</p> <p>自由時間の過ごし方やレクリエーションについて学ぶ。</p> <p>衣食住に関する支援の実際や配慮事項について学ぶ。</p> <p>日中活動における支援のあり方について学ぶ。</p> <p>福祉施設における保育者の役割について学ぶ。</p> <p>福祉施設内のチームワークのあり方について学ぶ。</p> <p>施設の機能について多様な視点から学ぶ。</p> <p>福祉事務所、児童相談書など他機関との連携について学ぶ。</p> <p>利用者や施設について総合的に学び、実習を振り返る。 以上11日間の学外実習をする。</p>				
指導方法 履修上の 注 意	<p>実習の前後において「福祉施設実習研究」を履修し、実習施設の概要、実習の目的や内容、実習に必要なとされる基本事項を学んだ上で実習に臨むこと。また、実習施設における指導を謙虚に受け止め、実習生にふさわしい言動がとれるようにしておくこと。実習に必要な書類の提出遅延、「福祉施設実習研究」の授業に無断欠席をする、授業時や実習中の態度などによっては本学の「実習派遣規制」によって実習の中止や停止の措置をとるので注意すること。</p>				
成績評価の 方 法	<p>実習園評価（50%） 実習記録（30%） 実習課題（20%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>必要に応じて紹介する。</p>				

授業科目	保育所実習	単位数	2	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所実習は、保育所実習での学びを踏まえ、保育者として必要な資質・能力・技術を習得すること、さらには子どもの保育及び保護者・家庭への支援について総合的に学ぶことをねらいとする。実習の段階としては「参加・責任実習」であり、子どもの生活や発達、保育者の役割へのより一層の理解を深めること、指導計画の作成・実践・省察・評価から保育の過程を理解することなどが求められる。</p>				
授業計画	<p>後期保育所実習は、原則として第3学年の9月（2週間）に実施する。</p> <p>参加・責任実習の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援と地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化 				
指導方法 履修上の 注意	<p>保育に関連する教科書・参考文献を読む、また遊びの具体例などについて情報を集めて習熟しておくなど、実習に向けて積極的に自己学習のプランを立て実行すること。</p>				
成績評価の 方法	<p>実習施設による評価（50％）、実習日誌（30％）、実習課題（20％）</p>				
教科書	<p>『実習の手引き』（実習委員会）、『教育・保育・施設実習の手引き』（松本峰雄編著、建帛社） 『保育所保育指針』</p>				
参考文献	<p>保育所実習研究の授業で使用する教科書及び参考文献を参照すること。</p>				

授業科目	施設実習	単位数	2	担当教員	松田鉄蔵
講義のねらいと概要	<p>施設実習は、児童福祉法第40条による児童厚生施設 - 児童館での実習である。</p> <p>子どもにあそびを提供し、地域の子育て支援サービス機関、放課後児童健全育成事業（学童保育）の実施場所、地域の子育て支援組織でもある母親クラブの活動支援、児童を取り巻く地域社会の組織化への取り組み等、地域における子育て支援の実態と、児童厚生員として職務への関わりを、実際の活動を通して学ぶ。施設実習は、2月初旬から10日間以上で実施する。</p>				
授業計画	<p>児童館実習の内容</p> <p>児童館の役割、意義について実践を通じて理解する。</p> <p>一日の活動プログラムの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親クラブの活動について ・館全体のプログラム ・放課後児童クラブのプログラム活動への参加 <p>・指導職員の助手の立場に立って、参加実習から、実習後半では部分指導実習、責任担当実習にはいる。</p> <p>職員、児童の家族、地域社会との関係の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員集団等専門家集団のチームワーク ・児童の家庭、地域との関わり方 ・児童館と高齢者・ボランティア等の関わりを学ぶ 				
指導方法履修上の注意	<p>児童館実習派遣には、「児童館の機能と運営」の単位取得が必要条件であり、「児童館の機能と運営」が後期受講のため、授業の進行の過程で、「児童館の機能と運営」の単位取得可能と判断された場合にのみ実習先の配当を行う。</p>				
成績評価の方法	<p>実習評価（80%）、実習日誌（20%）</p>				
教科書					
参考文献					

授業科目	保育所実習研究		単位数	1	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所実習研究は、前期保育所実習（2年次2月）の事前事後指導である。事前指導では、保育所実習の意義や目的を理解する、実習課題を明確にする、実習記録の意義や記録方法・指導計画を学ぶなど、実習に関する必要な知識と心構えを身につけることを目的とする。事後指導では、実習に対する自己評価・反省を求め、後期保育所実習に向けての課題を明らかにし、前期実習から後期実習へと保育についての学びを深めていけるよう必要な準備を行っていく。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション				
	第2週	保育所実習の意義・目的の理解				
	第3週	前期実習の内容の理解				
	第4週	保育所についての理解				
	第5週	実習の心構え				
	第6週	実習に必要な書類の作成				
	第7週	実習に必要な書類の作成				
	第8週	実習課題を明らかにする				
	第9週	実習記録の意義の理解				
	第10週	実習記録の実際と方法				
	第11週	実習記録の実際と方法				
	第12週	実習に必要な実技の確認				
	第13週	オリエンテーションと実習中の心得				
	第14週	実習内容の振り返りとまとめ				
	第15週	後期保育所実習への課題				
指導方法履修上の注意	<p>授業では、保育園での子どもの生活や実際の実習内容のイメージがもてるように、視聴覚教材やワーク・シートを活用する。実習に関する知識を身につけ、必要な準備を進めるために、原則として欠席はしないこと。</p>					
成績評価の方法	<p>課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、手続き（10%）</p>					
教科書	<p>『実習の手引き』（実習委員会）、『教育・保育・施設実習の手引き』（松本峰雄編著、建帛社）、『保育所保育指針』</p>					
参考文献	<p>『実習日誌の書き方』（相馬和子他、萌文書林）、『育ちのきほん』（神田英雄、ひとなる書房）</p>					

授業科目	福祉施設実習研究	単位数	1	担当教員	近喰晴子・山崎信一
講義のねらいと概要	福祉施設実習研究 は、学内における福祉施設実習の事前・事後指導のための授業である。実習の目的や実習内容を学ぶほか、実習に必要な書類の作成、実習施設の情報、事務的な連絡も行う。実習終了後は、体験を振り返り、学んだことをさらに深める取り組みを行う。				
授業計画	第1週	施設実習の概要	第16週	実習を終えて	
	第2週	施設実習の目的や意義	第17週	実習報告書、自己評価等の書類記入	
	第3週	養護を必要とする児童福祉施設での実習	第18週	自己課題と今後の学習課題	
	第4週	障がい児・者のための施設での実習	第19週	自己課題への取り組み	
	第5週	実習書類の作成	第20週	自己課題への取り組み	
	第6週	実習書類の作成	第21週	個別面談	
	第7週	実習書類の作成	第22週	個別面談	
	第8週	実習内容	第23週	実習報告会	
	第9週	実習課題の検討	第24週		
	第10週	実習日誌の書き方	第25週		
	第11週	事前訪問の目的・訪問時のマナー	第26週		
	第12週	実習中の留意点	第27週		
	第13週	実習施設研究	第28週		
	第14週	実習施設研究	第29週		
	第15週	実習直前指導	第30週		
指導方法 履修上の 注意	学内実習という意識で授業に臨むこと。無断欠席や無断遅刻・早退は原則として認めない。授業時の学習態度によっては実習に参加できないこともあるので注意すること。				
成績評価の 方法	レポート(50%)、課題(20%)、実習書類(20%)、授業態度(10%)				
教科書	『福祉施設実習ハンドブック』(著者名、岡本幹彦 出版社名 みらい 2000円)				
参考文献					

授業科目	保育所実習研究		単位数	1	担当教員	土屋 由
講義のねらいと概要	<p>保育所実習研究 は、後期保育所実習（3年次9月）の事前事後指導である。事前指導では、後期保育所実習の目的や内容を理解すること、実習課題を明確にすること、指導計画の作成や実習に必要な実技を確認することを行っていく。事後指導では、実習の総括と自己評価を求め、実習報告会などの振り返りの場を通して、保育についての課題を明確にしていく。</p>					
授業計画	第1週	後期実習の目的・内容の理解				
	第2週	実習に必要な書類の作成				
	第3週	実習に必要な書類の作成				
	第4週	実習課題を明らかにする				
	第5週	指導案作成上の基本の確認				
	第6週	指導案の立案 幼児クラス主活動				
	第7週	指導案の立案 幼児クラス生活場面				
	第8週	指導案の立案 未満児クラスの場合				
	第9週	指導案の立案 未満児クラスの場合				
	第10週	実習に必要な実技の確認				
	第11週	実習記録の実際と方法				
	第12週	実習内容の振り返りとまとめ				
	第13週	実習報告会の準備				
	第14週	実習報告会				
	第15週	実習の総括				
指導方法履修上の注意	<p>指導案の作成にあたり、様々な授業を通して学んできた遊びや造形表現のアイデアが必要になる。子どもとの活動に際して、役に立ちそうなものをノートにまとめておくなど、学びに対する主体的な態度をもつよう心掛けてほしい。実習について必要な準備を進めるため、原則として欠席はしないこと。</p>					
成績評価の方法	<p>課題・レポート（60％）、授業態度（30％）、手続き（10％）</p>					
教科書	<p>『実習の手引き』（実習委員会）、『教育・保育・施設実習の手引き』（松本峰雄編著、建帛社）、『保育所保育指針』</p>					
参考文献	<p>『幼稚園・保育所実習の活動の考え方と計画・展開の仕方』（大場牧夫他、萌文書林）</p>					

授業科目	福祉施設実習研究	単位数	1	担当教員	松田鉄蔵
講義のねらいと概要	<p>施設実習である児童館実習を履修する学生は必ず履修しなければならない。授業は実習の前後にわたって実施される。実習前の授業では、児童館の実際の活動内容理解のため、各地の児童館の活動を映像で紹介や、実習内容について先輩の実習報告を参考に理解を深め、実習への動機付けを図る。その上で実習の目的やねらい、実習手続き書類、特に実習調査書の作成をはじめ、必要書類・検査用品等の作成、配布を行う。</p> <p>実習後においては、児童館からの評価を土台に、良かった点、反省点や今後の課題を明確にし、次の実習へつなげていく。児童館実習には、「児童館の機能と運営」の履修が必要条件である。</p>				
授業計画	第1週	児童厚生員 - 資格の説明と取得までの手順の説明			
	第2週	児童館実習参加申込書の配布と申込書の提出			
	第3週	児童館実習の意義、目的の理解。実習参加への心構え			
	第4週	児童館実習参加者の体験談を聞き、その感想文を通して、文章の書き方を学ぶ - 1			
	第5週	児童館実習参加者の体験談を聞き、その感想文を通して、文章の書き方を学ぶ - 2			
	第6週	調査書の作成 - 下書き			
	第7週	調査書の作成 - 下書き			
	第8週	調査書の作成 - 清書			
	第9週	実習日誌の記入の意義について			
	第10週	実習日誌の記入方法(例示)			
	第11週	オリエンテーションについて			
	第12週	指導案の概要と作成			
	第13週	細菌検査の方法とその方法			
	第14週	実習後の対応-礼状等 - について			
	第15週	実習直前指導（実習への心構え、緊急時への対応の確認等々）			
指導方法 履修上の 注意	<p>実習に関する説明、書類の作成や提出等を行うので、特別な理由がない限り欠席は認めない。また実習関係書類の提出遅延、授業の欠席等が多い場合は、「実習派遣規制基準」に基づいて、「実習派遣の中止」となる。また保育士資格と履修科目が重なっているため、保育士資格が取得できない場合、児童厚生員資格は取得はできなくなることを承知しておく。</p>				
成績評価の 方法	授業態度、取り組み姿勢（100%）				
教科書	授業でプリントを配布				
参考文献					

授業科目	国語教育	単位数	2	担当教員	高原典子
講義のねらいと概要	<p>国語教育は大学の学業にとっても、実習・ボランティア・就職などの活動にとっても、読む・書く・話す・聞くという言語表現を磨くために大変重要です。</p> <p>本科目では、実践的な場面でも役に立つように敬語表現・お礼状などの手紙の書き方・作文のしかた・メールのマナーなどを学び、媒体や相手に適した国語表現ができるようになることを目指します。さらに保育における子ども達への国語教育にも役立つように、日本のすぐれた少年詩を読み味わい、子ども達と口ずさめるような演習も行います。</p>				
授業計画	第1週	本科目のねらいと保育実践における少年詩について 子どもと口ずさむ感動的な詩 新美南吉「天国」			
	第2週	敬語の基礎(教科書 P27 ~ 30) 子どもと口ずさむ自然の詩 北原白秋「お月夜」			
	第3週	敬語の基礎と応用(教科書 P31 ~ 34) 子どもと口ずさむ自然の詩 佐藤義美「おちばのうた」			
	第4週	敬語の応用(教科書 P35 ~ 38) 子どもと口ずさむ自然の詩 こわせたまみ「ちらちらゆき」			
	第5週	手紙の書き方(教科書 P39 ~ 48) 子どもと口ずさむ自然の詩 サトウハチロー「春になりました」			
	第6週	手紙の書き方(教科書 P39 ~ 48) 子どもと口ずさむ自然の詩 清水たみ子「きのめ」			
	第7週	実習園へお礼状を書く演習			
	第8週	文の書き方(教科書 P52 ~ 55) 子どもと口ずさむ自然の詩 川崎洋「たんぼぼ」			
	第9週	文の書き方についての小テストとまとめ 子どもと口ずさむ自然の詩 岸田衿子「きのうのかぜは」			
	第10週	手紙の書き方について的小テストとまとめ 子どもと口ずさむ自然の詩 鶴見正夫「あめのうた」			
	第11週	作文の基礎と演習			
	第12週	推敲のポイントを学ぶ 子どもと口ずさむ愉快な詩 村山篤子「もしもあめのかわりに」			
	第13週	実習日誌・部分実習指導案における国語表現(教科書 P5 ~ 26) 子どもと口ずさむ愉快な詩 谷川俊太郎「おならうた」			
	第14週	実習日誌・部分実習指導案における国語表現(教科書 P5 ~ 26) 子どもと口ずさむ愉快な詩 糸井重里「おめでとうのいちねんせい」			
	第15週	総括			
指導方法 履修上の 注意	<p>本科目では毎週教科書を使用しますので、忘れないように準備して下さい。</p> <p>学習内容は実習などに対応できるよう臨機応変に追加します。学習のまとめとして小テストを行い、知識の定着を図ることを目指しますので、各自ワークシートを基に授業の復習を着実に行ってください。</p>				
成績評価の 方法	筆記試験(40%) 授業中の小レポート(40%) 授業態度(20%)				
教科書	『保育学生のための実践国語演習』(原田留美著、おうふう)				
参考文献	『私の中の子どもと詩』(今井和子著、アイ企画) 『基礎からの国語表現の実践』(樺島忠夫他著 京都書房) 『日本語の作文技術』(本多勝一著 講談社)				

授業科目	数 量 教 育	単位数	2	担当教員	星 野 治																														
講義のねらいと概要	<p>私たちの社会は、「数」・「量」・「形」を抜きにしては成り立ちません。子供たちが幼少時から「数」・「量」・「形」に慣れ親しんでいくことは、彼らの社会感覚の形成過程に際して、重要な鍵の一つとなるはずです。</p> <p>この授業では、「数」・「量」・「形」の意味するもの、「数」・「量」・「形」の取り扱われかたを再度見直して、幼児の将来の学校活動(例：算数授業への参加など)や社会活動(例：買い物など)に無理なく結び付けられるような、数量教育指導のありかたを考えます。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>【数の面白さ・不思議さ】 “数”のもつ魅力を概観します。</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>【言葉としての数】 “数”が言葉の一種であることを再確認します。</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>【数の種類】 実際に使われている、いろいろな“数”を概観します。</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>【数量と図形との関係】 “かず”と“かたち”との対応を概観します。</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>【生活の中の数・量・形】 日常の諸活動の中に登場する“数”を概観します。</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>【遊びの中の数・量・形】 いろいろな遊びの中に垣間見られる“数”を概観します。</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>【数・量に関する先人の知恵(1)】 実用されている様々な“単位”の意味を概観します。</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>【幼児教育における数・量・形】 未就学児にとって必要な“数”とは何かを、改めて見直します。</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>【数・量に関する先人の知恵(2)】 これまでに考案されてきた、実用的な数値処理手法について概観します。</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>【文芸作品の中の数・量・形(1)】 “数”の観点から、往年の名作(主に文章作品)を鑑賞し直します。</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>【文芸作品の中の数・量・形(2)】 “数”の観点から、往年の名作(主に映画作品)を鑑賞し直します。</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>【小・中学校の算数・数学(1)】 文部科学省の学習指導要領のうち、小学校の算数に関する内容を概観します。</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>【小・中学校の算数・数学(2)】 文部科学省の学習指導要領のうち、中学校の数学に関する内容を概観します。</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>【全体のまとめ】 「数」・「量」・「形」に対する教育のありかたを、各自なりに整理します。</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>【期末試験および総括】 授業の前半は試験を行い、後半は試験問題の解説などを行います。</td> </tr> </tbody> </table>					第1週	【数の面白さ・不思議さ】 “数”のもつ魅力を概観します。	第2週	【言葉としての数】 “数”が言葉の一種であることを再確認します。	第3週	【数の種類】 実際に使われている、いろいろな“数”を概観します。	第4週	【数量と図形との関係】 “かず”と“かたち”との対応を概観します。	第5週	【生活の中の数・量・形】 日常の諸活動の中に登場する“数”を概観します。	第6週	【遊びの中の数・量・形】 いろいろな遊びの中に垣間見られる“数”を概観します。	第7週	【数・量に関する先人の知恵(1)】 実用されている様々な“単位”の意味を概観します。	第8週	【幼児教育における数・量・形】 未就学児にとって必要な“数”とは何かを、改めて見直します。	第9週	【数・量に関する先人の知恵(2)】 これまでに考案されてきた、実用的な数値処理手法について概観します。	第10週	【文芸作品の中の数・量・形(1)】 “数”の観点から、往年の名作(主に文章作品)を鑑賞し直します。	第11週	【文芸作品の中の数・量・形(2)】 “数”の観点から、往年の名作(主に映画作品)を鑑賞し直します。	第12週	【小・中学校の算数・数学(1)】 文部科学省の学習指導要領のうち、小学校の算数に関する内容を概観します。	第13週	【小・中学校の算数・数学(2)】 文部科学省の学習指導要領のうち、中学校の数学に関する内容を概観します。	第14週	【全体のまとめ】 「数」・「量」・「形」に対する教育のありかたを、各自なりに整理します。	第15週	【期末試験および総括】 授業の前半は試験を行い、後半は試験問題の解説などを行います。
第1週	【数の面白さ・不思議さ】 “数”のもつ魅力を概観します。																																		
第2週	【言葉としての数】 “数”が言葉の一種であることを再確認します。																																		
第3週	【数の種類】 実際に使われている、いろいろな“数”を概観します。																																		
第4週	【数量と図形との関係】 “かず”と“かたち”との対応を概観します。																																		
第5週	【生活の中の数・量・形】 日常の諸活動の中に登場する“数”を概観します。																																		
第6週	【遊びの中の数・量・形】 いろいろな遊びの中に垣間見られる“数”を概観します。																																		
第7週	【数・量に関する先人の知恵(1)】 実用されている様々な“単位”の意味を概観します。																																		
第8週	【幼児教育における数・量・形】 未就学児にとって必要な“数”とは何かを、改めて見直します。																																		
第9週	【数・量に関する先人の知恵(2)】 これまでに考案されてきた、実用的な数値処理手法について概観します。																																		
第10週	【文芸作品の中の数・量・形(1)】 “数”の観点から、往年の名作(主に文章作品)を鑑賞し直します。																																		
第11週	【文芸作品の中の数・量・形(2)】 “数”の観点から、往年の名作(主に映画作品)を鑑賞し直します。																																		
第12週	【小・中学校の算数・数学(1)】 文部科学省の学習指導要領のうち、小学校の算数に関する内容を概観します。																																		
第13週	【小・中学校の算数・数学(2)】 文部科学省の学習指導要領のうち、中学校の数学に関する内容を概観します。																																		
第14週	【全体のまとめ】 「数」・「量」・「形」に対する教育のありかたを、各自なりに整理します。																																		
第15週	【期末試験および総括】 授業の前半は試験を行い、後半は試験問題の解説などを行います。																																		
指導方法 履修上の 注 意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義形式によります。 2. 授業の進行都合により、開講順序を変更する場合があります。 3. この授業で取り扱う話題は、いわゆる数学上の話題とは異なり、解答が一つだけであるとは限りません。また、個々の話題の内容を理解する際に、幅広い背景知識が求められる場合が多くなります。したがって、“自分自身ならばこう考える”という、能動的な態度で履修することが望ましいと考えます。 																																		
成績評価の 方 法	筆記試験(70%)、授業態度(30%)																																		
教 科 書	必要に応じて指定します。 他の授業科目で使用する教科書を、この授業でも使用する場合があります。																																		
参 考 文 献	必要に応じて随時紹介します。 他の授業科目で使用する参考文献を、この授業でも使用する場合があります。																																		

授業科目	保 育 者 論	単位数	2	担当教員	船 越 忠 男
講義のねらいと概要	<p>保育者を目指す学生のみなさんに対し、保育者とは何か、今、保育者に求められている資質や能力は何か、そして保育者の職務の内容等について、関連法規等を踏まえて検証します。みなさんの保育者に対する意識を高め、目指す保育者像を描くことができることを期待しています。</p>				
授業計画	第1週	保育者を志望する動機と目指す保育者像			
	第2週	社会が求める理想の保育者像			
	第3週	幼児教育の基本と目標			
	第4週	保育園保育士、幼稚園教諭の特徴と役割			
	第5週	法令に定められた保育者の身分と責務			
	第6週	保育者の職務の具体的な内容1（出勤から退勤までの1日の職務）			
	第7週	保育者の職務の具体的な内容2（各種園行事）			
	第8週	保育者の職務の具体的な内容3（園務分掌、園だより・保育記録・指導要録の作成）			
	第9週	様々なニーズへの支援を行う保育者（共生保育・他文化保育）			
	第10週	様々な課題と対応の在り方（いじめ問題、理不尽なクレーム）			
	第11週	保護者や地域と協働する保育者			
	第12週	小学校教育の理解と連携			
	第13週	子育て環境の変化と保育者の役割			
	第14週	保育者の資質能力の向上（生涯学習、研修）			
	第15週	まとめ - 保育者としての適性の理解と進路選択 - 試験			
指導方法履修上の注意	<p>講義形式で進めますが、難しい理論や知識のみに偏することを避けるため教育メディアの活用やリアルタイムな情報を提供します。また、一方的な講義にならないようにするためにみなさん自身の体験をもとにした意見発表や討議の場の設定やワークシートを使用し、みなさんの習得状況を確認しながら進めます。プリント等を整理・保存する「A4版クリアファイル」を各自用意してください。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（60％）、レポート・課題（20％）、授業態度（20％）				
教科書	使用しません。授業の都度、講義のレジュメや資料をプリントして配布します。				
参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。				

授業科目	教育社会学	単位数	2	担当教員	小堀哲郎																														
講義のねらいと概要	<p>現代社会には 教育 をめぐる問題やトピックには事欠かない。また、今日の日本では、ほとんどの人が高校に進学し、さらに大学や短大などの高等教育を受ける人が 7 割に至る。このように、現代社会に生きる私たちは、 教育 と無縁でいることはできないと言える。</p> <p>教育社会学は、現代社会と密接な関係にある 教育 というものに、社会学という学問的立場からアプローチをするものである。特に、この講義では、保育者を目指す学生に対して、毎回具体的な 保育 や 子ども に関する話題を取り上げるので、現代の子どもが置かれている状況に理解を深めてほしいと思う。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1週</td><td>子どもと保育 の社会学とは何か</td></tr> <tr><td>第2週</td><td>子ども観の歴史と現代の社会事情</td></tr> <tr><td>第3週</td><td>人口減少時代のなかの子育て</td></tr> <tr><td>第4週</td><td>子どもは地域社会で何を学ぶか</td></tr> <tr><td>第5週</td><td>家族と子育て</td></tr> <tr><td>第6週</td><td>子ども・家族を見通した子育て支援</td></tr> <tr><td>第7週</td><td>保育者の実践とジェンダー形成</td></tr> <tr><td>第8週</td><td>保育所・幼稚園へのクレーム</td></tr> <tr><td>第9週</td><td>学級経営</td></tr> <tr><td>第10週</td><td>なぜ保育者には短大卒が多いのか</td></tr> <tr><td>第11週</td><td>保育者のライフコース</td></tr> <tr><td>第12週</td><td>保育者は専門職か</td></tr> <tr><td>第13週</td><td>早期教育と現代の子育て事情</td></tr> <tr><td>第14週</td><td>子どもとメディア</td></tr> <tr><td>第15週</td><td>試験・まとめ</td></tr> </table>					第1週	子どもと保育 の社会学とは何か	第2週	子ども観の歴史と現代の社会事情	第3週	人口減少時代のなかの子育て	第4週	子どもは地域社会で何を学ぶか	第5週	家族と子育て	第6週	子ども・家族を見通した子育て支援	第7週	保育者の実践とジェンダー形成	第8週	保育所・幼稚園へのクレーム	第9週	学級経営	第10週	なぜ保育者には短大卒が多いのか	第11週	保育者のライフコース	第12週	保育者は専門職か	第13週	早期教育と現代の子育て事情	第14週	子どもとメディア	第15週	試験・まとめ
第1週	子どもと保育 の社会学とは何か																																		
第2週	子ども観の歴史と現代の社会事情																																		
第3週	人口減少時代のなかの子育て																																		
第4週	子どもは地域社会で何を学ぶか																																		
第5週	家族と子育て																																		
第6週	子ども・家族を見通した子育て支援																																		
第7週	保育者の実践とジェンダー形成																																		
第8週	保育所・幼稚園へのクレーム																																		
第9週	学級経営																																		
第10週	なぜ保育者には短大卒が多いのか																																		
第11週	保育者のライフコース																																		
第12週	保育者は専門職か																																		
第13週	早期教育と現代の子育て事情																																		
第14週	子どもとメディア																																		
第15週	試験・まとめ																																		
指導方法 履修上の 注意	講義を中心に進める。																																		
成績評価の 方法	筆記試験（60%）毎回の授業時に行うレポート（40%）																																		
教科書	『社会のなかの子どもと保育者』（小堀哲郎編著、創成社）																																		
参考文献	授業中に適宜紹介する。																																		

授業科目	保 育 課 程 論	単位数	2	担当教員	鯛 谷 和 代
講義のねらいと概要	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領の趣旨を理解し、全在所、在園期間を見通した資料による保育構想から、長期（年間・期・月など）短期（週・日・特定の活動など）の指導計画を学び取り、実際に指導計画をたてながら、保育課程について学んでいく。</p>				
授業計画	第1週	保育課程の考え方			
	第2週	保育所保育指針について			
	第3週	保育所における保育課程			
	第4週	幼稚園教育要領について			
	第5週	幼稚園における教育課程			
	第6週	0歳・1歳・2歳の発達・生活の特徴			
	第7週	3歳・4歳・5歳の発達・生活の特徴			
	第8週	保育園・幼稚園をデザインしてみよう			
	第9週	保育所・幼稚園の年間指導計画			
	第10週	指導計画の作成 1、行事			
	第11週	2、生活の見通し			
	第12週	3、健康・安全・家庭との連携			
	第13週	4、日案の作成			
	第14週	まとめ			
	第15週	試験			
指導方法履修上の注意	<p>受身で授業に参加するのではなく、積極的に臨み、質問に対しては、大きな声で答える。</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験（50%）、レポート（20%）、授業態度（30%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>『埼玉県幼稚園教育課程指導資料、教育課程保育課程論』（河邊貴子編著、東京書籍）</p>				

授業科目	保育内容（音楽表現）	単位数	1	担当教員	大輪公吉
講義のねらいと概要	保育内容（音楽表現）を基礎とし、教師としてより高いメチエ（技術）、知識そして指導理念を学び、アカデミズムにより磨きをかけます。ここでもソルフェージュ（音感訓練）をベースとしています。				
授業計画	第1週	ハンガリーにおける音楽教授法をコダイを中心に学ぶ。（トニック・ソルファ、各種リズム練習、聴覚訓練、音楽のさまざまな形式）			
	第2週	〃			
	第3週	〃			
	第4週	〃			
	第5週	〃			
	第6週	〃			
	第7週	〃			
	第8週	ダルクロワーズを中心とした音楽教授法を中心とした音楽教授法を学ぶ。（聴音歌唱、音階練習、旋律練習）			
	第9週	〃			
	第10週	オルフを中心とした音楽教授法を学ぶ。（リズム模倣、リズム創作、旋律創作、簡易なリズム伴奏、ロンドによる即興）			
	第11週	〃			
	第12週	〃			
	第13週	〃			
	第14週	マーセルの身体的リズム練習への指摘事項を中心に学ぶ。			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	毎回必ず五線ノートを用意のこと。				
成績評価の方法	筆記試験（40%）、レポート（30%）、授業態度（30%）				
教科書	『「幼児の音楽教育」- 音楽的表現の指導 -』（音楽教育研究協会）				
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針』（チャイルド本社）、『ソルフェージュ教授法』（Z.エルジェーベト、全音楽譜出版社）、『リズムと音楽教育』（E. J.ダルクロワーズ、全音楽譜出版社）、『子どものための音楽』（C.オルフ、日本シヨット社）				

授業科目	保育内容（造形表現）	単位数	1	担当教員	市瀬 恭子
講義のねらいと概要	<p>造形表現 に引き続き、幼児の遊びをイメージしながら、創りだしていく喜びや、楽しさを保育者自らが感じ、五感を働かせて創造性を豊かにすることを目標とする。</p> <p>感性に働きかけるアーティストからの提言として、ブルーノ・ムナーリとエリック・カールをとりあげ、彼らのプログラムを演習する。</p>				
授業計画	第1週	アーティストからの提言 エリック・カール			
	第2週	エリック・カールの絵本 ビデオを鑑賞する。			
	第3週	エリック・カールのプログラム	色紙づくり		
	第4週	エリック・カールのプログラム	コラージュによる作品制作		
	第5週	エリック・カールのプログラム	コラージュによる作品制作		
	第6週	まとめと評価			
	第7週	アーティストからの提言 ブルーノ・ムナーリ			
	第8週	ブルーノ・ムナーリプログラムから	「木をかこう」	平面	
	第9週	ブルーノ・ムナーリプログラムから	「木をかこう」	平面	
	第10週	ブルーノ・ムナーリプログラムから	「木をつくろう」	立体	
	第11週	ブルーノ・ムナーリプログラムから	「木をつくろう」	立体	
	第12週	自分の感性と向き合う ワークショップ			
	第13週	指導案の事例から考える（1）			
	第14週	指導案の事例から考える（2）			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>制作を中心に進めていく</p> <p>自分の課題に応じて、使用する材料、用具を準備する。</p> <p>制作に要する材料費は本人負担とする。（300円程度）</p> <p>授業態度と作品に取り組む姿勢を重視する。</p>				
成績評価の方法	レポート（30％） 作品（30％） 発表（10％） 授業態度（30％）				
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）				
参考文献	参考書；『幼稚園教育要領 保育指針』（チャイルド社）				

授業科目	保 育 指 導 法		単位数	2	担当教員	近 喰 晴 子
講義のねらいと概要	<p>保育を実践する際に大切なことは、乳幼児の心にどのように寄り添い、生活を支えていくかということではないか。本授業では、乳幼児の生活を支えていくために必要とされる様々な保育場面を想定し、実践的見地から指導技術の習得をめざす。</p>					
授業計画	第1週	保育実践の基本	第16週	保育の計画		
	第2週	援助・指導の基本	第17週	指導計画		
	第3週	子どもの発達と保育	第18週	指導案の実際		
	第4週	遊びの意義、指導と展開	第19週	指導案に基づいた実践と評価		
	第5週	遊びの環境、保育者のかかわり	第20週	自然とかかわる保育活動と指導の実際		
	第6週	けんかやいざこざの指導	第21週	園外の環境を取り入れた保育活動		
	第7週	園庭遊具と保育	第22週	保育におけるメディアの活用		
	第8週	遊具の安全と管理	第23週	行事と保育		
	第9週	室内遊具の活用	第24週	園行事の実際		
	第10週	保育教材研究1（視聴覚）	第25週	保育の評価		
	第11週	保育教材研究2（手遊び・歌遊び）	第26週	指導要録について		
	第12週	保育教材研究3（製作）	第27週	保護者との関わり		
	第13週	生活習慣の指導	第28週	保育者の資質と研修		
	第14週	生活場面の指導の実際	第29週	これからの保育に求められること		
	第15週	まとめ	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>講義と演習形式で行う。保育者役、幼児役をとりながら模擬保育を行い、体験に基づいた具体的な指導方法を求める。</p>					
成績評価の方法	<p>課題・レポート（60％）、授業態度（40％）</p>					
教科書	<p>『幼稚園教育要領・保育所保育指針』（チャイルド本社） 『保育方法の探究』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）</p>					
参考文献	<p>授業の中で必要に応じて紹介する。</p>					

授業科目	教育方法・技術論	単位数	1	担当教員	金子 真由子
講義のねらいと概要	<p>幼児教育における教育方法と技術に関する基本的な事柄について学ぶ。また、情報機器やそれらを活用した教材の活用や教材作成の技術と方法について学び、実際に教材を作成し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>幼児期の発達の特徴を踏まえ、基本的な指導方法および教育課程の原則を説明できるようになること、また、具体的な情報機器や情報メディアを通じて、教育目標に即した教材を作成できるようにすることを本講義の目標とする。</p>				
授業計画	第1週	授業ガイダンス（教育方法とは何か）			
	第2週	幼児教育における教育方法と技術			
	第3週	幼児期の発達と教育課程の原則			
	第4週	幼稚園教育における情報機器の活用			
	第5週	描画ソフトを活用した教材研究			
	第6週	ワープロを活用した教材作成（作図機能の基礎）			
	第7週	ワープロを活用した教材作成（作図機能と描画の活用）			
	第8週	フォトタッチソフトを活用した教材作成			
	第9週	表計算ソフトの活用（作表と簡単な計算の活用）			
	第10週	表計算ソフトの活用（指導および教育への応用）			
	第11週	プレゼンテーションソフトの活用（基本操作）			
	第12週	プレゼンテーションソフトの活用（指導および教育への応用）			
	第13週	情報機器に関する総合課題			
	第14週	指導方法および教育課程に関する総合課題			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>適宜プリントを配布するので、プリントや学習内容を記録したものを1冊のノート（ファイル）にまとめること。</p> <p>毎時間、課題にきちんと取り組むこと。</p> <p>学生相互が発表する機会を持ち、プレゼンテーション能力や聞く態度の養成も行う。</p>				
成績評価の方法	課題（70％）、発表（30％）				
教科書	『30時間でマスター WindowsVista 対応 Office2007』（実教出版編修部、実教出版）				
参考文献	『コンピュータを活用した保育の実際』（倉戸直実・岸本義博、北大路書房）				

授業科目	教 育 相 談	単位数	2	担当教員	伊 藤 明 芳
講義のねらいと概要	<p>教育相談は、保育者が相談者（主に保護者）に対して、家庭や幼稚園における子どもの教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。</p> <p>背景に発達や環境の要因があると推測される子どもの問題行動から保護者の養育不安まで、相談内容は多岐にわたる。これからの保育者には保護者の心へのサポートもより意識的に求められるようになって考えられる。</p> <p>本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と現場で生きる教育相談の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。</p>				
授業計画	第1週	1. イントロダクション 教育相談とは何か			
	第2週	2. 体験から学ぶ相談に必要なこと ロールプレイ(1) [相談を受ける時の基本姿勢]			
	第3週	ロールプレイ(2) [意思を通じあうこと]			
	第4週	3. 相談実践の基本と応用 教育相談の基礎(1) [概要]			
	第5週	教育相談の基礎(2) [実践へのヒント]			
	第6週	教育相談のためのカウンセリング活用			
	第7週	教育相談のための心理アセスメント			
	第8週	教育相談のプロセス			
	第9週	4. 事例から学ぶ教育相談 子どもの心の発達・心の問題(1) [登園渋り]			
	第10週	子どもの心の発達・心の問題(2) [落ち着きなし]			
	第11週	子どもの心の発達・心の問題(3) [保護者の心の問題]			
	第12週	5. 保育者の心の健康を育む カウンセリングの理論			
	第13週	エンカウンター実習			
	第14週	まとめ			
	第15週	今後へのアドバイスと試験			
指導方法履修上の注意	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、ロールプレイ、エンカウンター等も取り入れ、相談やカウンセリング等の体験的な学習もおこないたい。</p> <p>相談を受けて人に関わるとき、保育者には人間のかつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（60％） 課題（40％）				
教科書	『子育て支援を考えるために』（須永進 [編] 蒼丘書林）				
参考文献	講義の中で必要に応じて適宜紹介する				

授業科目	幼 児 教 育 実 習	単位数	4	担当教員	近 喰 晴 子
講義のねらいと概要	<p>学内で学んだ理論や技能が、幼児教育の現場でどのように活かされ応用することができるかということなどを体験的に学び、保育の営みを総合的に理解する。また、子どもの活動に参加し子ども理解に努めるとともに、保育者の助手的立場を体験しながら保育者の職務理解に努める。観察・参加実習を中心とした前期実習を2年時に、参加・責任実習を中心とした後期実習を3年時に実施する。</p>				
授業計画	前期実習	実習園の日課を理解する。	後期実習	配属クラスの日課を理解する。	
		配属クラスの子どもの名前を覚える。		配属クラスの子どもの名前を覚える。	
		子どもの遊びに参加する。		子どもの遊びに参加し活動の実態を把握する。	
		保育の進め方を観察する。		保育者の導入や指導方法を学ぶ。	
		環境の構成について学ぶ。		保育活動に部分的に参加する。	
		絵本の読み聞かせや紙芝居などを実践する。		部分実習をする。	
		子どもの興味・関心や思考傾向について知る。		責任実習にむけ教材研究、指導計画作成などの準備をする。	
		保育者の職務について学ぶ。		責任実習を行う。	
		幼稚園の保育について総合的に学ぶ。		幼稚園の機能や役割について学ぶ。	
		前期実習を振り返り後期実習の課題をまとめる。		後期実習全般の評価をする。	
指導方法履修上の注意	<p>「幼児教育実習研究」で学んだことを参考に、実習園の指導に従って実習が行われる。実習が効果的に行われるよう事前準備をしっかりと行い、謙虚な気持ちで指導を受けること。</p>				
成績評価の方法	<p>実習園評価（50%）、実習記録（30%）、課題（20%）</p>				
教科書	<p>『幼稚園教育要領』（文部科学省）</p>				
参考文献					

授業科目	幼 児 教 育 実 習 研 究		単位数	1	担当教員	近喰晴子・永井めぐみ
講義のねらいと概要	教育実習に必要な知識や技能を総合的に学び、効果的な実習となるよう準備を進めるための学内実習授業である。実習に必要な書類の準備、教材研究、評価・反省などを含み不安なく学外実習に臨めるようにする。					
授業計画	第1週	教育実習の目的や意義	第16週	前期実習を終えて		
	第2週	幼稚園とは	第17週	実習報告書の作成		
	第3週	幼稚園の一日の生活	第18週	前期実習の自己評価とレポート		
	第4週	幼稚園の保育内容	第19週	後期実習の課題と学習計画		
	第5週	実習書類の作成	第20週	園評価と実習録評価について個別面談		
	第6週	実習書類の作成	第21週	園評価と実習録評価について個別面談		
	第7週	保育者の一日の生活	第22週	後期実習にむけて		
	第8週	実習課題の作成	第23週	書類の作成		
	第9週	前期実習の目的	第24週	実習課題		
	第10週	事前訪問の意義とマナー	第25週	教材研究		
	第11週	オリエンテーション報告	第26週	指導計画		
	第12週	実習記録の書き方	第27週	事前訪問と実習時のマナー		
	第13週	実習記録の書き方	第28週	後期実習の反省と評価		
	第14週	実習中のマナーや関わり上の留意点	第29週	実習報告書類等の記入		
	第15週	前期実習に向けて	第30週	実習報告会		
指導方法 履修上の 注意	この授業は、学内実習として実習単位に換算される授業である。したがって無断欠席や遅刻早退、授業態度の良し悪しは実習派遣規制にかかわってくるので注意すること。また、実習に関する重要な情報を聞き逃し、必要書類が整えられないなどの原因となるので留意すること。					
成績評価の方法	レポート（50％） 課題（30％） 授業態度（20％）					
教科書	『教育・保育・施設実習の手引』（松本峰雄、建帛社）					
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）					

授業科目	保育・教職実践演習（幼稚園）	単位数	2	担当教員	近喰・土屋・伊藤(明)・金子
講義のねらいと概要	<p>将来の教員像を描けるように、教職の意義を実践的な演習体験を通して学び直し、自己の課題を自覚し、教職生活が円滑にスタートできるようにする。以下4つの具体的なテーマを中心に履修する。</p> <p>使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 社会性や対人関係能力に関する事項 幼児理解や学級経営に関する事項 教科・保育内容等の指導力に関する事項</p>				
授業計画	第1週	授業の進め方、グループ分け、課題指示など			
	第2週	- 1 子どもに誠実に接すること・公平に接すること・責任観を持って接することについて、実践事例をもとに討議を行う。			
	第3週	2 保育者の倫理観と規範意識について、実践事例をもとに討議を行う。			
	第4週	- 3 子どもの成長や安全、健康に関する保育者の適切な行動について、指導案をもとに必要な配慮を検討する。			
	第5週	- 1 教育実習の経験から現場での人間関係の基本が身に付いたか、また、教員組織における役割やチームワークのあり方について体験を基に討議する。			
	第6週	- 2 前回話し合った具体的な事例をもとにした役割演技から望ましい教員の職務を体感して理解する。			
	第7週	- 3 体験をもとに、保護者や地域の関係者の意見や要望に耳を傾け、連携協力できるような良好な人間関係を築く方法を役割演技を通じ理解する。			
	第8週	現職幼稚園教諭または教員経験者による講話			
	第9週	1 今日的な教育的課題に関し、履修者が実習等の経験にもとづく事例報告を相互に行う。			
	第10週	2 報告された事例への対応について議論を行う。			
	第11週	3 報告をもとに「個々の子どもの特性に応じた対応とは何か」を検討し理解を深める。			
	第12週	- 1 保育内容に関する教材研究を行い、それを生かした指導案を作成する。			
	第13週	- 2 指導案にもとづいた模擬保育を実践し、指導方法に対する討議を行う。			
	第14週	- 3 実践記録を作成し、記録にもとづいた保育の進め方について検証する。			
	第15週	授業全体のまとめと振り返り			
指導方法 履修上の 注意	～ はグループごとに実施する。実施順序はグループにより異なる。				
成績評価の方法	レポート（50％）、発表（30％）、授業態度（20％）				
教科書	『やさしく学べる 保育実践ポートフォリオ』（ミネルヴァ書房）				
参考文献	『全国保育士会倫理綱領』（全国社会福祉協議会）、『育ての心』（フレーベル館）児童権利条約				

授業科目	保育相談支援	単位数	1	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>保育現場において、保護者や子ども達の相談を受けることは現代の保育者にとって必須となる。従って、保育者を志す者は相談をどのように受ければよいのかを知っておく必要がある。</p> <p>この授業では、これまで学んできた心理カウンセリングの知識などを確認するとともに、実際の保育相談支援の現場を知ることで、実践的な保育相談を学んでいく。</p>				
授業計画	第1週	保育相談支援の意義			
	第2週	保育者と相談			
	第3週	子どもの支援			
	第4週	保護者の支援			
	第5週	保育相談の行われる場			
	第6週	保育相談の現場 1			
	第7週	保育相談の現場 2			
	第8週	保育相談の現場 3			
	第9週	保育相談の現場 4			
	第10週	保育相談の基本的な方法			
	第11週	発表 1			
	第12週	発表 2			
	第13週	発表 3			
	第14週	発表 4			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>講義と発表形式で行う。</p> <p>保育相談では、悩んでいる人の発言に耳を傾けその心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。その姿勢を身につけるためにも授業をしっかりと聞き取るという構えを求める。</p>				
成績評価の方法	レポート(45%)、発表(45%)、授業態度(10%)				
教科書					
参考文献					

授業科目	臨床心理学		単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>現代社会では、不登校やいじめ・摂食障害など、こころの問題が原因と思われる現象が様々な場面で見られている。臨床心理学とは、このような問題を、どのように理解し、どのように援助していくかを考える学問である。このような視点を紹介した上で、我々が生活の中で、臨床心理学的な考えをどう活かしていくか考えていきたい。</p> <p>また、臨床心理学では幼少時の母子関係や発達課題などが数多く論じられている。それらを紹介し、幼少時の子どもとのつき合い方を考えていきたい。</p>					
授業計画	第1週	臨床心理学の定義	第16週	心理カウンセリングの定義		
	第2週	臨床心理学の実践	第17週	クライアント中心療法		
	第3週	臨床心理学の歴史(古代～メスマル)	第18週	クライアント中心療法の実践		
	第4週	臨床心理学の歴史(精神分析1)	第19週	心理アセスメントの定義		
	第5週	臨床心理学の歴史(精神分析2)	第20週	心理アセスメントの方法		
	第6週	ユングの童話分析	第21週	言語によるアセスメント		
	第7週	臨床心理学の歴史(心理学の技法)	第22週	非言語によるアセスメント		
	第8週	乳児期の母子関係1	第23週	心理テスト		
	第9週	乳児期の母子関係2	第24週	アセスメントと4つの水準		
	第10週	乳児期の母子関係3	第25週	精神分析の技法1		
	第11週	幼児期の母子関係1	第26週	精神分析の技法2		
	第12週	幼児期の母子関係2	第27週	催眠療法		
	第13週	児童期以降の発達	第28週	認知行動療法		
	第14週	前期の復習	第29週	リラクゼーションとイメージ療法		
	第15週	まとめ・前期試験	第30週	まとめ・後期試験		
指導方法履修上の注意	単に知識として学ぶのではなく、自分自身の心理や体験をふまえながら、臨床心理学を学べるように進めていきたい。					
成績評価の方法	筆記試験(90%)、授業態度(10%)					
教科書	『臨床心理学を基本から学ぶ』(丸島令子、日比野英子、北大路書房)					
参考文献						

授業科目	地域子育て支援論		単位数	2	担当教員	加賀谷・土屋・武田
講義のねらいと概要	<p>現代社会において、子育て支援は子育てをする家庭にとって非常に大きな力となっている。一方で、これらの取り組みが始まってからある程度の時間がたち、より地域に根差した新たな支援も考慮しなければならない。本講義では、地域における保育活動や子育て支援活動について諸説を学ぶとともに、実際の支援活動を行うことで「地域子育て支援」のあり方について学んでいくこととする。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	講義		
	第2週	実地演習に向けて（準備など）	第17週	実地演習 A・B		
	第3週	講義	第18週	講義		
	第4週	実地演習 A・B	第19週	実地演習 A・B		
	第5週	講義	第20週	講義		
	第6週	実地演習 A・B	第21週	実地演習 A・B		
	第7週	講義	第22週	講義		
	第8週	実地演習 A・B	第23週	実地演習 A・B		
	第9週	講義	第24週	講義		
	第10週	実地演習 A・B	第25週	実地演習 A・B		
	第11週	講義	第26週	講義		
	第12週	実地演習 A・B	第27週	実地演習 A・B		
	第13週	講義	第28週	講義		
	第14週	実地演習 A・B	第29週	実地演習 A・B		
	第15週	前期の振り返り	第30週	後期の振り返り		
指導方法 履修上の 注意	<p>他の受講生の意見や考え方を聞き、自分の考えと相対化することで自分の考えをさらに深めてほしい。</p>					
成績評価の方法	<p>授業態度（50%）、課題（50%）</p>					
教科書	<p>授業において紹介する。</p>					
参考文献	<p>授業において紹介する。</p>					

授業科目	カウ ン セ リ ン グ 論	単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>心の悩みを解決する方法の一つとしてカウンセリングが挙げられる。カウンセリングの場面で重要なことは、悩んでいるクライアントの話を如何に聴き、如何に理解するかである。そこで本授業では、精神分析やロジャーズなどのカウンセリング理論を取りあげ、実習を交えながら、クライアントの悩みの聞き方を考えていく。</p> <p style="text-align: center;"><u>この授業でピアヘルパーの資格受験対策も行う。</u></p>				
授業計画	第1週	カウンセリングの定義			
	第2週	カウンセリングの初期の流れ			
	第3週	実際のカウンセリング			
	第4週	構成的グループ・エンカウンター			
	第5週	ピアヘルピングの方法1			
	第6週	ピアヘルピングの方法2			
	第7週	ピアヘルピングの方法3			
	第8週	ピアヘルピングの方法4			
	第9週	ピアヘルピングの方法5			
	第10週	ピアヘルピングの方法6			
	第11週	カウンセリングで起こりやすい問題点			
	第12週	様々な症例に対するカウンセリング			
	第13週	カウンセリングと保育			
	第14週	カウンセリングと子育て支援			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	カウンセリングの理論の中から、人の悩みや話の聴き方を学んでいく。				
成績評価の方法	レポート(100%)				
教科書	『ピアヘルパー・ハンドブック』(日本教育カウンセラー協会編、図書文化社)、『ピアヘルパー・ワークブック』(日本教育カウンセラー協会編、図書文化社)				
参考文献					

授業科目	児童館の機能と運営	単位数	2	担当教員	秋山展子
講義のねらいと概要	<p>児童館（含児童センター）は、子どもに健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする児童福祉法による児童厚生施設である。少子化対策の推進の中で、児童館は、時代のニーズに応じ子育て支援や児童の健全育成、小学生及び中・高生の居場所づくりなど、地域の核となる児童福祉施設として重要な役割を担っている。授業では、居住地の児童館の位置の確認や、児童館活動の映像を土台に、児童館の歴史、目的、役割、利用状況、民営化(指定管理)の現状・課題を学ぶ。また実習で活用できる。工作遊び等も紹介したい。</p>				
授業計画	第1週	(児童館実習参加の前段階として)児童厚生員とその資格の説明			
	第2週	居住地域内(市町村単位)の児童館・小学校の位置図の作成			
	第3週	「健全育成」とは			
	第4週	児童館の種類及び機能			
	第5週	小型児童館の設置及び運営			
	第6週	DVD - 風がはこぶもの 児童センター大型児童センターの設置及び運営			
	第7週	大型児童館の設置及び運営			
	第8週	DVD - 海はじょんのび これからの児童館の機能と役割			
	第9週	児童館活動を支える人々			
	第10週	児童館活動の実際 - 活動内容及び利用状況から			
	第11週	DVD - ぼくたちの午後 放課後児童健全育成事業の概要			
	第12週	放課後児童健全育成事業の実態			
	第13週	児童館の歴史			
	第14週	児童厚生員のあり方と児童館を支える団体			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>授業の前半は、児童館のイメージをもつためにDVD上映や、実習で活用できる、ゲーム・歌・紙飛行機・お話・工作等小学生も巻き込める遊びの紹介を行い、後半はパワーポイントを使用して行う。日頃から、幼児はもとより小・中・高生また親や地域に関する社会的事象に関心をもって受講する。レクリエーション理論・実技を併せて受講することが望ましい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(70%)、レポート(10%)、授業態度(20%)				
教科書	授業でプリント配布				
参考文献	『児童館 理論と実践』(児童健全育成推進財団)				

授業科目	福祉施設の現状		単位数	2	担当教員	松田鉄蔵
講義のねらいと概要	<p>児童福祉施設（障害関係施設は、児童施設から成人施設までを対象とする）での各施設種別毎の法制度、財政、職員の資質・研修・待遇等を通して、現状認識と、現実の問題点を通して、施設養護のあるべき姿を考察する。また福祉施設にたよらないで、家族の一員として暮らす里親制度の概略の理解の上に、保育資格と里親・専門里親の考えを構築する。施設内での体罰が増加している現状と、保育所での園児の死亡事例、特に上尾保育所での死亡事故（平成17年）事例から保育所を含む福祉施設の「職員像」を考えていきたい。</p>					
授業計画	第1週	社会的養護の必要な子の現状について				
	第2週	児童福祉施設の入所から退所までの手続き・家庭との関係(家庭調整) 地域と福祉施設との連携				
	第3週	障害者自立支援法の概要と今後の福祉及び障害児者福祉施設の体系と施設の役割、障害者の生活について				
	第4週	障害者自立支援法での障害児施設の機能について				
	第5週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活 - 乳児院の現状・				
	第6週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活 - 乳児院の課題、将来の施設像・				
	第7週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活 - 児童養護施設の現状				
	第8週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活 - 児童養護施設の職員体制と生活				
	第9週	社会的養護の必要な子どもたちのための施設とその生活 - 児童養護施設の課題、将来の施設像				
	第10週	里親(専門里親)のドラマから里親と養護施設の生活を考える				
	第11週	里親制度について				
	第12週	新しい動き - 施設型グループホームと里親ファミリーホーム				
	第13週	福祉施設での体罰の事例から、「施設職員像」を考える				
	第14週	上尾保育所での死亡事故（平成17年）の事例から福祉施設職員の仕事を考えてみる				
	第15週	上尾保育所での死亡事故（平成17年）の事例から福祉施設職員の仕事を考えてみる				
指導方法 履修上の 注意	<p>福祉施設として、乳児院、児童養護施設を中心に、里親制度の概要について授業内容を絞っておこなう。施設の概要、対象児・者の理解のためにDVDを活用する。施設内での体罰の事例については、新聞記事を中心にその都度出していく。全国のここ数年の保育所での死亡事故事例を通して、「上尾保育所事故調査委員会報告書」から、福祉現場では働く「職員」のありかたから、自分の近い将来の取り組みの土台を考え得るような授業を行う。</p>					
成績評価の方法	レポート（80%） 授業態度（20%）					
教科書	授業でプリント配布					
参考文献						

授業科目	地 域 福 祉	単位数	2	担当教員	秋 山 展 子
講義のねらいと概要	本講義では地域福祉の発展過程を踏まえながら、将来の展望を示し、社会福祉に必要な知識を学ぶことを目的としている。				
授業計画	第1週	新しい社会福祉システム			
	第2週	地域福祉の基本的な考え方			
	第3週	地域福祉の主体と福祉教育			
	第4週	行政組織と民間組織の役割と実際			
	第5週	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割			
	第6週	住民の参加と方法			
	第7週	ソーシャルサポートネットワーク			
	第8週	地域における社会資源活用・調整・開発			
	第9週	地域における福祉ニーズの把握方法と実			
	第10週	地域トータルケアシステムの構築と実際			
	第11週	地域における福祉サービスの評価方法			
	第12週	地域における福祉サービスの実際			
	第13週	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方（イギリス）			
	第14週	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方（アメリカ）			
	第15週	福祉によるまちづくりとソーシャルアクション			
指導方法 履修上の 注 意					
成績評価の 方 法	筆記試験（60％）、レポート（10％）、授業態度（30％）				
教 科 書	『新・社会福祉士養成講座 第9巻 地域福祉の理論と方法 地域福祉論 第2版』（社会福祉士養成講座編集委員会 編集、中央法規出版）				
参 考 文 献					

授業科目	保育施設経営論	単位数	2	担当教員	福田 武比古
講義のねらいと概要	<p>近年、保育を取りまく動向はめまぐるしく変化している。少子化は進行し、これらに対応するために、児童福祉法の改正、次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法等の制定などが相次ぎ、子育ての社会的支援がクローズアップされてきた。一方、地方分権と規制改革の波は保育界にも押し寄せており、保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の経営にも大きな影響を与えている。</p> <p>本授業では、少子化対策・子育ての社会的支援の主要な柱である保育施設の経営について、あらゆる角度から考えるとともに、保育をめぐる様々な問題について考察し理解する。</p>				
授業計画	第1週	少子・高齢社会と子育ての社会的支援			
	第2週	保育制度と保育の歴史、保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の機能			
	第3週	保育や子どもをめぐる最近の動向と保育施設の経営			
	第4週	保育施設経営と地方分権・規制改革			
	第5週	保育施設経営と幼保一元化・直接契約・直接補助			
	第6週	保育施設における労務管理と人間関係			
	第7週	保育者の育成・資質向上（自己評価・第三者評価等）			
	第8週	保育施設経営とリスクマネジメント（保健活動・事故防止・安全管理等）			
	第9週	保育ニーズの多様化への対応			
	第10週	地域の子育て支援活動			
	第11週	保育施設経営と財務管理			
	第12週	地域協働のネットワーキング及び保護者・関係機関との連携			
	第13週	保育サービスの質の向上			
	第14週	保育施設の情報管理			
	第15週	保育関連施策と特別保育事業			
指導方法 履修上の 注意	<p>1．教科書及び参考文献その他の資料に基づき講義</p> <p>2．必要に応じて、パズセッション等の演習</p>				
成績評価の方法	レポート（60％）、授業態度（40％）				
教科書	授業時に配布するプリント				
参考文献	『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』				

授業科目	児童文化（感受性開発を含む）	単位数	2	担当教員	高原典子
講義のねらいと概要	<p>現代では、子ども特有の遊びや児童文化財、すなわち児童文化が、一生を通じてあらゆる人の遊び心を育み、生活や人間関係に潤いを与えるものとして新たに見直されています。</p> <p>本科目では、児童文化伝承に果たしてきた子どもの役割を知り、同時に保育実践の場で、子ども達に時に適った援助ができるような保育実技の力も磨いていきます。絵本・児童文学・紙芝居・人形劇・手あそび、玩具・折り紙など児童文化財の歴史や内容を学ぶと共に、制作すること、演じることなどを通して、保育者として必要とされる豊かな感性も身につけていきます。</p>				
授業計画	第1週	<子ども観の変遷と児童文化について> 教科書『児童文化』P9～15、P42～43	第16週	前期の復習テストとまとめ	
	第2週	<児童文化財としての絵本について> 絵本の歴史、特色、種類について。教科書 P67～71	第17週	<春の子どもの生活と年中行事> 日本の節句、年中行事について学ぶ。教科書 P47～53	
	第3週	<児童文化財としての絵本について> 絵本の読み語りについて学び、二人で読み合う演習	第18週	<夏の子どもの生活と年中行事> 夏の子どもの遊びと「七夕」などについて。教科書 P54～57	
	第4週	<絵本を読み語る演習（グループワーク）> 集団の前で実際に読み語る演習を行う。	第19週	<秋の子どもの生活と年中行事> 「七五三」「運動会」などについて。教科書 P58～62	
	第5週	<児童文化財としての玩具について> 玩具の歴史、子どもの発達と玩具。教科書 P89～95	第20週	<冬の子どもの生活と年中行事> 「クリスマス」「正月」「節分」などについて。教科書 P63～66	
	第6週	<手づくり玩具について> 手づくり玩具の意義について考え、制作する。教科書 P95～112	第21週	<小テストとまとめ> 「四季の子どもの生活と年中行事」などについて。	
	第7週	<児童文化財としての折り紙について> 折り紙の歴史を学び、制作する。教科書 P171～174	第22週	<児童文化財としての児童文学> 日本の昔話とお伽噺について。教科書 P134～136	
	第8週	<児童文化財としての紙芝居について> 紙芝居の歴史と演じ方について。教科書 P143～147	第23週	<児童文化財としての児童文学> 「桃太郎」などの日本の昔話の変遷について。	
	第9週	<人形劇エプロンシアターの理論と演じ方> 教科書 P159～163、デモンストレーション	第24週	<児童文化財としての児童文学> グリムの昔話とグリム兄弟について。	
	第10週	<児童文化財としてのアニメーについて> 「となりにトトロ」も視聴。教科書 176～181	第25週	<児童文化財としての児童文学> グリムの昔話と昔話絵本について。	
	第11週	<「となりのトトロ」に観る子どもの文化> 「となりのトトロ」の背景と子どもの遊びについて	第26週	<児童文化財としての児童文学> アンデルセンの生涯と作品。教科書 P114～117	
	第12週	<人形劇パネルシアターの理論と演じ方> 教科書 P163、デモンストレーション	第27週	<児童文化財としての児童文学> アンデルセン童話を読む。教科書 P114～117	
	第13週	パネルシアターの絵人形制作	第28週	パネルシアターの実演とまとめ	
	第14週	パネルシアターの実演	第29週	パネルシアターの実演とまとめ	
	第15週	パネルシアターの実演	第30週	後期テストとまとめ	
指導方法履修上の注意	<p>前期においては5週目以降、一人ひとり絵本の読み語りを行い、後期においては、「パネルシアター」の個人実演を行います。単位取得のために実演は欠かせませんので、各自よく練習をして臨んでください。また授業の中で絵本や折り紙などを使う場合には、各自忘れずに準備してくること。なおパネルシアターの制作には制作費として約1,800円が自己負担となります。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（40%）、実技（40%）、レポート（20%）				
教科書	『児童文化』（三上利秋編著、保育出版社）、『みんなで手遊びワン・ツー・トン』（妹尾美智子・市川恭子著、ドレミ楽譜出版）				
参考文献	『児童文化』（皆川美恵子ほか著、ななみ書房）、『演習 児童文化』（小川清実編、萌文書林） 『昔話の深層 ユング心理学とグリム童話』（河合隼雄著 講談社プラスアルファ文庫）				

授業科目	インターンシップ	単位数	2	担当教員	星野 治
講義のねらいと概要	<p>インターンシップは、一言で言うならば「体験就業」学習であり、学生が事業体の方々と実際の仕事を体験することを通して、自分自身にしっかりした職業意識を育て、自分が目指す就職とはどういうものなのかを認識することを目的としています。</p> <p>具体的には、チャイルド関連、その他の様々な企業や施設等で、長期休業期間を利用して一定期間就業を体験する授業です。</p>				
授業計画	<p>第1回 【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。</p> <p>第2回 【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会（前回の実習参加者による体験発表）の聴講、その他。</p> <p>第3回 【実習申し込み】 実習申し込みを行わなかった場合、履修を放棄したものとして扱われます。</p> <p>第4回 【選考試験（学科専任教員による学内面接）】 正当な理由がなく選考試験を受験しなかった場合、履修を放棄したものとして扱われます。 選考試験の成績によっては、実習派遣が規制される場合があります。</p> <p>第5回 【実習先事業体の決定】 選考試験の成績や実習先事業体側の都合などにより、必ずしも志望どおりにならない場合があります。</p> <p>第6回 【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。 必要書類を所定期限までに提出しなかった場合、履修を放棄したものとして扱われます。</p> <p>第7回 【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認。</p> <p>第8回</p> <p>第9回 【体験就業（現場実習）】</p> <p>第10回 現場実習は長期休業期間（夏季または春季）を利用して、計10日間以上実施します。 具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります。</p> <p>第11回 実習期間が他の学外実習と重複する場合、実習開始前に日程を調整します。 （原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習のほうが優先されます）</p> <p>第12回 実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。 現場実習を辞退または放棄した場合、履修を放棄したものとして扱われます。</p> <p>第13回</p> <p>第14回 【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。</p> <p>第15回 【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施（日時・場所は別途指示します）。</p>				
指導方法 履修上の 注意	<p>1. 授業（講義形式）は、不定期に開講されます。 具体的な開講日時・開講場所についてはそのつど、掲示等で通知します。</p> <p>2. 【注意】諸事情により夏季実習に参加できなかった前期履修者が、同年度内の春季実習への参加を希望する場合は、後期授業開始時に必ず「再履修」の手続きを行ってください。</p> <p>3. 夏季実習へ参加するには、前期に実施される選考試験を受験して合格する必要があります。 春季実習へ参加するには、後期に実施される選考試験を受験して合格する必要があります。</p> <p>4. 受け入れ学生を“短期的な就労者”あるいは“将来の就職希望者”という観点から評価する事業体が増えているので、本学のイメージを損なうことのないよう、現場においては常に責任ある言動を取るようお願いします。</p>				
成績評価の方法	レポート（60%）、発表（20%）、授業態度（20%）				
教科書	必要に応じて指定します。				
参考文献	必要に応じて随時紹介します。				

授業科目	インターンシップ	単位数	2	担当教員	星野 治																														
講義のねらいと概要	<p>『インターンシップ』での「就業体験」の経験を活かし、さらに、二度目の研修を体験しながら確かな職業意識を持てるようになります。</p> <p>具体的には、チャイルド関連、その他の様々な企業や施設等で、長期休業期間を利用して一定期間研修します。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会（前回の実習参加者による体験発表）の聴講、その他。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>【実習申し込み】 実習申し込みを行わなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>【選考試験（学科専任教員による学内面接）】 正当な理由がなく選考試験を受験しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。 選考試験の成績によっては、実習派遣が規制される場合があります。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>【実習先事業体の決定】 選考試験の成績や実習先事業体側の都合などにより、必ずしも志望どおりにならない場合があります。</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。 必要書類を所定期限までに提出しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認。</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>【体験就業（現場実習）】</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>現場実習は長期休業期間（夏季または春季）を利用して、計10日間以上実施します。 具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>実習期間が他の学外実習と重複する場合、実習開始前に日程を調整します。 （原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習のほうが優先されます）</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。 現場実習を辞退または放棄した場合、履修を放棄したものと扱われます。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施（日時・場所は別途指示します）。</td> </tr> </table>					第1回	【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。	第2回	【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会（前回の実習参加者による体験発表）の聴講、その他。	第3回	【実習申し込み】 実習申し込みを行わなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。	第4回	【選考試験（学科専任教員による学内面接）】 正当な理由がなく選考試験を受験しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。 選考試験の成績によっては、実習派遣が規制される場合があります。	第5回	【実習先事業体の決定】 選考試験の成績や実習先事業体側の都合などにより、必ずしも志望どおりにならない場合があります。	第6回	【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。 必要書類を所定期限までに提出しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。	第7回	【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認。	第8回		第9回	【体験就業（現場実習）】	第10回	現場実習は長期休業期間（夏季または春季）を利用して、計10日間以上実施します。 具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります。	第11回	実習期間が他の学外実習と重複する場合、実習開始前に日程を調整します。 （原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習のほうが優先されます）	第12回	実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。 現場実習を辞退または放棄した場合、履修を放棄したものと扱われます。	第13回		第14回	【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。	第15回	【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施（日時・場所は別途指示します）。
第1回	【ガイダンス(1)】 インターンシップの意義、今後の予定、その他。																																		
第2回	【ガイダンス(2)】 インターンシップ実習報告会（前回の実習参加者による体験発表）の聴講、その他。																																		
第3回	【実習申し込み】 実習申し込みを行わなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。																																		
第4回	【選考試験（学科専任教員による学内面接）】 正当な理由がなく選考試験を受験しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。 選考試験の成績によっては、実習派遣が規制される場合があります。																																		
第5回	【実習先事業体の決定】 選考試験の成績や実習先事業体側の都合などにより、必ずしも志望どおりにならない場合があります。																																		
第6回	【事前指導(1)】 誓約書および身上書の作成・提出。 必要書類を所定期限までに提出しなかった場合、履修を放棄したものと扱われます。																																		
第7回	【事前指導(2)】 諸注意事項の確認、必要な事務手続きの説明、実習日誌の作成要領、社会人としての基本マナーの確認。																																		
第8回																																			
第9回	【体験就業（現場実習）】																																		
第10回	現場実習は長期休業期間（夏季または春季）を利用して、計10日間以上実施します。 具体的な実施期間は、実習先事業体ごとに異なります。																																		
第11回	実習期間が他の学外実習と重複する場合、実習開始前に日程を調整します。 （原則として、国家資格・国家免許の取得に必要な実習のほうが優先されます）																																		
第12回	実習先事業体によっては、実習開始前に必要な研修等を行う場合があります。 現場実習を辞退または放棄した場合、履修を放棄したものと扱われます。																																		
第13回																																			
第14回	【事後指導(1)】 実習先事業体担当者および本学教員による実習状況の評価。																																		
第15回	【事後指導(2)】 インターンシップ実習報告会の実施（日時・場所は別途指示します）。																																		
指導方法 履修上の 注意	<p>本科目を履修するためには、次の[1]または[2]のいずれか一方に該当することが必要です。</p> <p>[1] 『インターンシップ』の単位（2単位）を修得済みであること。</p> <p>[2] 『インターンシップ』の現場実習（夏季または春季）を終了して、評価待ち（単位修得見込み）の状態であること。</p> <p>その他、諸注意事項の詳細は『インターンシップ』の場合と共通です。『インターンシップ』の講義要項を、併せて参照願います。</p> <p>なお、諸事情により夏季実習に参加できなかった前期履修者が、同年度内の春季実習への参加を希望する場合は、後期授業開始時に必ず「再履修」の手続きを行ってください。</p>																																		
成績評価の方法	レポート（60%）、発表（20%）、授業態度（20%）																																		
教科書	必要に応じて指定します。																																		
参考文献	必要に応じて随時紹介します。																																		

授業科目	レクリエーション論	単位数	2	担当教員	新戸信之
講義のねらいと概要	過去の経験により形成された「レクリエーション」の概念を検証するとともに、レクリエーション運動の歴史を紐解きながら、様々な領域・場面におけるレクリエーション活動の意義や効果・必要性について、企画方法・実技とも連動させ、体系的に学習する。				
授業計画	第1週	オリエンテーション 自由とレクリエーション			
	第2週	レクリエーションとは何か レクリエーション略史			
	第3週	レクリエーション支援の構造			
	第4週	領域別レクリエーション			
	第5週	ライフスタイルとレクリエーション			
	第6週	健康スポーツとレクリエーション			
	第7週	セラピューティックレクリエーション APIE プロセス			
	第8週	レクリエーションの価値とニーズ 財の分類			
	第9週	レクリエーション事業とは			
	第10週	レクリエーション事業計画			
	第11週	レクリエーション行動のメカニズム			
	第12週	コミュニケーションスキルとホスピタリティ			
	第13週	レクリエーションワーカーの資質 安全管理			
	第14週	支援プログラム案の作成方法			
	第15週	試験 まとめ			
指導方法 履修上の 注意					
成績評価の 方法	筆記試験（80%）、課題（5%）、授業態度（15%）				
教科書	『レクリエーション支援の基礎』（日本レクリエーション協会、日本レクリエーション協会）				
参考文献	『レクリエーション概論』（園田碩哉・小池和幸・池良弘・涌井忠昭著、ヘルス・システム研究所）、『レクリエーション学の方法』（日本レクリエーション学会、ぎょうせい）				

授業科目	レクリエーション実技		単位数	2	担当教員	新戸 信之
講義のねらいと概要	<p>前期は、様々なレクリエーション財を体験し、それぞれの持つおもしろさや効果を感じることを目的とし、後期は、日時・場所・対象など、支援現場に即した状況でロールプレイをすることにより、現場対応力を身につけることを目的とする。</p> <p>1年を通して、レクリエーションを学んだ者のスペシャリティとなり得るスキルを習得することを目的とする。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション コミュニケーション・ワーク(個人 グループ)	第16週	レクリエーションプログラム案の作成 支援プログラム評価の視点について		
	第2週	動的グループ・ゲーム	第17週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 の準備・リハーサル		
	第3週	静的グループ・ゲーム	第18週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第4週	イニシアティブ・ゲーム	第19週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第5週	グループ・ワーク・トレーニング	第20週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第6週	レクリエーション・スポーツ	第21週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第7週	レクリエーション・スポーツ	第22週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第8週	身近な物を利用して遊ぶ	第23週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第9週	知的レクリエーション財	第24週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第10週	レクダンスをつくる	第25週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第11週	レクダンスの発表	第26週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第12週	携帯電話の機能を使ったアクティビティ	第27週	ロールプレイによるレクリエーション支援体験： グループ		
	第13週	創造的レクリエーション財(絵画)	第28週	レクリエーション支援のポイント		
	第14週	創造的レクリエーション財(造形)	第29週	試験 まとめ		
	第15週	レクリエーションプログラム案の作成方法	第30週	チャレンジ・ザ・ゲーム		
指導方法 履修上の 注意						
成績評価の方法	筆記試験(30%)、課題(5%)、発表(50%)、実技(5%)、授業態度(10%)					
教科書	『レクリエーション支援の基礎』(日本レクリエーション協会、日本レクリエーション協会) 『たのしい!!レクリエーションゲーム集』(日本レクリエーション協会、日本レクリエーション協会)					
参考文献	『ファシリテーターの道具箱』(森 時彦、ファシリテーターの道具研究会)、『アイスブレイク入門』(今村 光章、解放出版社)					